



門 凡呂 4  
1553  
5



新編江戸志 卷之七 目錄

一 赤坂 三河亭 今井

一 青山 権太原 恩田 長者丸 鉤起橋

一 赤谷 玉池 鶴沢 羽沢 馬車沢

一 世田ヶ谷

一 麻布 谷町 堀沢 日ヶ窪 樽田町  
栗飯沢 廣尾



一 白 銀

一 目 黒

大崎 碑文谷

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



新編江戸志 卷七上



赤坂



記曰公穀三百六十九束三毛田假粟二百三十三丸貢麦稗又貢  
鶴鷺云々



南向差詰云赤坂の字赤土の地有之稱之或一瀧川赤坂毛坂  
山車山赤土赤坂事朱之山赤坂之山中赤土の所を云々  
古老の記に此山赤土の地有之稱之或一瀧川赤坂毛坂  
事之云々云々伊豆の赤坂山洋陸の何れ許御皆云々名赤坂  
也云々の可也の坂を赤坂と云々此先の山を青山と云々云々  
云々事云々云々

○氷川神社 小六宮と云 聖護院冰別尊 大東院

風土記云志坂庄小六天神或曰古呂故 吉田二十五東 三毛田天武天皇

三年甲戌十月始行神禮有神戶巫戸所祭大已貴少彥名

園韓神也云小六者以古呂故岡名也

按園韓神と云は神社あり云在宮内省延暦遷都時造

宮使欲移之他所神記曰唯在此所可守天子延喜式園神

一坐韓神二坐仲冬祭之云

平高潔考曰古史紀云速須地之男命娶太市姬生子大年

神中其大年神娶伊忍比賣生子大國魂神次韓神次

曾富理神云園神古史記云曾富理神也云は鏡古集

少将内侍

ちのさるふゆぬみそきをけりそのかみ神事書に云云

江戸雀云当社天曆年中江草劍のより江戸跡を以て今当社と云

坂神の外に江戸宮保十五年庚戌御遷居ありし今の殿遷居

り多祀六月十日隔年也と云

貞和云或人云語りけり志坂の名に社元八郎在焉元祖

甲州出づ社元頼母と云其子助を以て其子久を以て其子小六と

云し兼鷹の比の者也此小六神社河再興 信原せしむ世人

小六、夫とわたりし氷川祭記に十月十日ありし成宮保十

五年庚戌六月十日元氷川より今の今井各に移りし故に云

六月十五日、各祀所よりし

亦曰く、氷川別当大乗院に、天神の社人より修葺し、又古蹟の  
いふに、彼所より、美濃年中、別当の附主より始まる

赤坂名に、当秋元ハ、左の月帳向にあり

の三河基、今井、氷川社の下也

此、和名に、向高直卿の御殿の跡なり、故にあり由

○今井城跡、同前、松山、赤坂、赤坂、

江戸、妙子、田子、先生、義賢、が、多、戸、即、こ、り、西、原、を、義、平、と、  
合戦の時、義賢の出城の跡なり、と云、或は、今井、兼平の城跡なり、  
と云、一、玉、ら、と、云、一、平、と、云、赤坂、の、実、盛、の、城、跡、と、記、す、り、

○鯉の井

同所

江戸、麻、子、と、云、け、井、二、丈、を、り、の、鯉、の、跡、なり、と、云、り、清、冷、り、水、成、る、を

○富士見坂、松平出羽守治郷御屋敷前也

江戸、麻、子、と、云、空、晴、る、と、云、り、不、二、山、見、ゆ、と、云、り、と、云、り、也

○赤坂御門

或人のいふに、赤坂の見付は、寛永十二年、庚子月、上、の、日、に、  
注、来、せ、り、と、云、り、赤坂、名、を、秋、元、ハ、左、の、月、帳、向、に、留、め、り、と、云、り、

又、云、く、左、の、勢、に、秋、元、ハ、左、の、月、帳、向、に、在、り、由、入、り、左、の、月、帳、向、に、  
物語りの由、書、み、ま、す、

一、具、傳、り、と、云、り、赤坂、一、木、敷、を、折、折、云、上、古、久、保、四、丁、也、也

一、具、傳、り、と、云、り、赤坂、一、木、敷、を、折、折、云、上、古、久、保、四、丁、也、也

の木の事 勘所 五所目 且まて 其具塚と云ふ事 乃ち西の久保ゆき  
せり 且まて 具塚の内と云ふ

一 志坂一本町の町家 ありて 天正十九年の事なり

一 上杉の人次と書かば 一本と書替たり 是上二木 下二木 五所  
共と云ふ 一縁より 上二木と云ふ人 一と云ふ 坂 禪宗系

三 寺大木の榎所 一本 榎所と云ふ 下二木の 大木 元北川  
弁天の社内の榎也 但下二木と云ふ所 在也 清岸寺の榎所

也 是上二木 三所 同作 同本 あり 一 榎所なり

一 志坂田所 町家あり 一 是永享<sup>十三年</sup> 同十三年 毎年  
町家あり

一 志坂付馬所の町家と改り 寛永十六年の事なり

一 志坂西所の 榎所を 五川と云ふ 是の 道方上

川に在る 榎所の 榎所を 榎本と云ふ 上古志坂は

切塚 是向家 榎の 道方上 榎提と云ふ 是上古杖元

八印 在馬 畑境の 柳の 申也 今 榎所 是 志坂 榎

柳 上古柳 内の 木 あり 是なり

○ 薬研坂 松平左衛門 茂元 是 青山 あり 是 榎

江戸 藤原 あり 榎 あり 是 榎 あり 又 何 榎 あり 榎  
とも云ふ 何 榎 あり 是 榎 あり 是 榎 あり

○ 鈴降 榎所 社 下一本 榎 あり 別 あり 山 榎 あり 院  
榎 あり 院

里に天慶の元徳より元禄八年まで移り

○田通寺坂 日蓮宗田通寺より寺の東方に坂あり

○行合坂 今井村より上り坂

○三分坂 種徳寺の東方に坂あり

此坂より上り坂車を推上りし時根三分の車力を増し

ゆえに土人の説也

○新馬場 三分坂の下

○古馬場 同所武士やまの路の名

○南部坂 谷町の東方に多那坂あり

里田家中のきりきり坂の東方に谷町一丁に坂あり

○元氷川 赤坂傳馬所坂、上京保正五年今の今井町に移

○鱗 店 赤坂火消屋の北の方

此處地面三角に鱗の形に似たり云ふ

○凡 呂町 赤坂傳馬所北の裏町

江戸村より傳馬所云ふに、此町の凡なる遊女あり云ふ

○赤根山 紀伊郡赤坂の山を云ふに、赤坂の山を云ふに、

赤坂の山を云ふに、赤坂の山を云ふに、

赤坂の山を云ふに、赤坂の山を云ふに、

赤坂の山を云ふに、赤坂の山を云ふに、



ききい苗代まき作またり所なりしあり跡の持法より地名なり

○一ツ木 上二ツ木 四谷敷と腐とをふ下一ツ木の後

大永四年二月十三日北条氏綱上杉朝興少将播磨の首共を

控一木原に旗打上作法あり勝鬃をやり松 ひし由鎌

倉九代地と見ゆ

○鷲御門 地冊御中御まきの御つ也此前より坂を下り

真・作知所なり

○黒鉄石 田通寺坂下の谷也惣中より

○時の鐘 田町浄土真宗成満寺なり

○櫓瓦敷 今井より童土へ出所相平大膳右大臣中より

城平右櫓の木立河原也

### 寺院

○日照山 清岸寺 浄土宗 智恵院末 赤坂一尺

甲山性蓮社真蒼得生大和尚

△十一面観音寺内安置江ノ三十三所の内十九番目也

定朝法師の作手あり寺の下り寺傳いり抑此観世音一人身

百土代後光明院の御宇江都下町の道祐と云隱者なり氏

字像を信じて草庵ありと云々年々一寺に慶安四年

十月夜夢を感ず大土道祐と云と云ゆゆ此ゆゆ

信を以て依り我亦汝を以て依らざるを以て一寺の境内に移し安んず  
たふ周く名を利きし便ありし是も可なり叶ふなり  
夢の成はるるれ道祐思ふに依他に移せん子にわすれん  
佛の所教を以て依らざるを以て縁あり移し玉に法教は定  
の異賦ありしを以て

○池見山威徳寺 真言 真福寺史 同所

○開山 勝全法師

○信康山龍泉寺 淨土宗 智恩院末 同所

○開山 摩蓮社源光上人 隨流一法大和尚 寛永元年甲子年建立

○川崎山法名寺 同 増上寺末 三ヶ坂寺末

○源蓮社廣登周秀光悦和尚

○藝國山西教寺 真宗 西本願寺末 一末

○開山 秋明誓法師

○春嶽山大本寺 禪宗 大中寺末 同所

○開山 明解 關大和尚 禪師

○平河山源照院 淨土寺 淨土宗 増上寺末 一末

○開山 明蓮社 教界上人 聖公和尚 文應三年五月十五日寂

注古至の口より夫より自銀可し移り又頼可し十所目今の成概

算人心腹百より道なり寛永十二癸未年當所福より開山

當所沖谷上人のむに九廿五也なりと云

再板江戶御子、清浄の御子、文龜三年、移す言、  
火を御子

△観音堂 寺傳、此是像、人皇百代、後光厳院の宸

筆、阿彌陀佛、東福門院、御筆跡の御子、御子、御子

御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

板板志、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

△塔瓦 常照院 五同院

○龍博の松泉寺 禪宗、妙心寺末、一、大專修寺傳

甲山

○稲荷山 田通院

禪宗、日末

甲山

○一行山 弘願院 專修寺 淨土宗 妙心寺末 寺田通寺傳

甲山 寂蓮社 覺春上人 通達和尚 永祿七年、九月、元化

當寺、永祿年中、御子、御子、御子、御子、御子、御子

僅、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

一、寺、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

元化、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

谷、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

院、御子、御子、御子、御子、御子、御子、御子

家宣親王の御代

本寺阿弥陀 惠心修智作 赤史 三尺余

鎮守并方天山法作 廿三夜得大觀至末 古佛合佛 土中出地石果

○佛智心山通寺 日蓮宗玉沢末

甲山佛智院日通上人

○靈風山種徳寺 禪 大徳寺末 叢三坂下

甲山東光智梵禪所 因之東光寺と云ふ所 歌 東光山と云ふ

天正十九年先住聖傳智禪所相州田原分 難可千可目引移れ

産 〇醫王水 五軒所 坊瓦松法院 柏樹院

○清涼心覺永寺 淨土真宗西本願寺末 三坂上

甲山 釈尊念

○康寧山專福寺 同宗 同末

甲山 善海 坊瓦 往西寺 同末

○光闡山道教寺 同宗 善寺末 寺所

甲山 推律少政 又所 念生園 三所 又所 併付古末 政長と云  
明暦元年五月一日入寂 當時 親之 年代 不知 往古 齋 所 保 末 寺  
寛永十二年二月 於 寺 之地 移 了 甲山 寺 現 在 寺 乃 八 世 也

○徳心寺 同宗 西本願寺末

甲山

○萬廣寺 同宗 東本願寺末

甲山

○笑柳山 報土寺

淨土真宗 寺在石寺末

招泉寺

甲山 永安法所

○清水山 常玄寺

日蓮宗 慶宗寺末

一采大寺

甲山 日盛寺

○正善寺

天台宗 上野末

寺并於三所

甲山

○今井山 妙福寺

淨土真宗 西末

寺所

甲山

○西光寺

寺所

甲山

○中根山 明福寺

淨土真宗 东末

寺所

甲山

○道源寺

天徳寺末

寺所

甲山

○萬通山 陽泉寺

禪宗 寺在石寺末

寺并

甲山 寺在石寺末

○花岳山 法真寺

三宗 泉母寺末

寺并

甲山

○法皇山 大泉寺

三宗 甲州大泉寺末

寺所

甲山

崇巖寺

淨土

智恩院末

今井

甲山

妙像寺

蓮宗

心湊末

今井

甲山

○無量山田林寺

淨土宗

今井

甲山

○法性山善學寺

淨土

増上寺末

今井

甲山

○金杉山江花寺

禪宗

海寧寺末

今井

甲山

○微妙山真性寺

日蓮宗池上末

今井

甲山

○妙祐寺

真宗西本願寺

今井

甲山

○大乗院 氷川別当 聖德院末

今井

享保十四年一ノ木より地ニ移了。

○専福寺

真宗

東本願寺

今井

甲山

○法平寺

日蓮宗 龍舟園末

今井

○ 青山

澄泉寺

了自門派

# 青山

沼谷と伝

天正の比は山口竹理亮重政は、麻布に居る也其内七  
 一坪を分て、青山忠成十萬石の時、今の青山の地一田、  
 忠俊幸成兄弟が、街を隔て、伝へて、梅屋、山口家、  
 子伯、子孫の地を青山家、  
 山口家、  
 改撰至徳、云天正九年、青山常陸守忠成、此所を定地、  
 改撰至徳、云天正九年、青山常陸守忠成、此所を定地、

わう是より青山の山頂にあり

①駒留八幡 青山の屋敷に向ふ

往古天竺の神成し常春の山に命 老馬を以て一田の地を  
と他を以て一田の地を以て青山の山頂に命 老馬を以て一田の地  
廻るを以て一田の地を以て青山の山頂に命 老馬を以て一田の地  
上の八幡のまを勸進寺に奉りて是は駒留八幡と稱せし世傳  
破まは傍より一日せり

○権太原

江戸御子名末の権太左エツ國のり人住む地と云ふ

梅より権太左エツ國のり人住む地と云ふ 権太家系

の始より権太左エツ國のり人住む地と云ふ 権太家系

天難中記曰慶長九年七月権太左エツ國のり人住む地と云ふ

收公やらるといふ疑ふらんとす人の居る所を云ふ

再板江戸御子名末の権太左エツ國のり人住む地と云ふ

代交たむらひと云ふ

○熊野社 原宿 別当三光山淨性院

諸神祀曰伊弉册尊 速玉神 泉津事解神 是三所権祀也

と云ふ当社熱色の来歴たりと云ふ 青山の惣領寺也

分記九月廿一日



再及  
江戸砂子云地伊國延世三勸修青山の鎮守也本官新古册習  
是代延丹三の山子祭神伊弉冉子早玉之男事解乃男三神也  
日本地心伊弉冉子生大神時被灼而神退去美故美記紀伊  
國遊野之有馬村

○封之井 所不詳

青山大睡亮殿屋まの内河大水悪水あり空觀法師加持  
封の井 極田の内所不詳此の悪水より空觀法師加持して清  
左のあり外 由空觀と邪術者をして配流せらるる其の事  
外極田上杉系御代に日向招き家の内河にき名水あり井の中

一洗の極田の内の青山の河に云々

○掃除坂 青山殿前よりあり

江戸麻子の云御掃除の衆多生る此の名水と

○此坂の彌布所 御掃除所より

御掃除の板を石化し人の居る所の海也

○燈堤 本所通河の北の海邊にあり

土の河に昔の祀あり

○百人町

青山若澤介忠成が後府久政忠忍百人を引きたり天  
西十八年少田系系滅後河東系御代に翌年青山山忠成

当所之地、むす同くよ力同心同財、以所を此地拜り、  
とく、青山を海に也。

○恩田

南無阿弥陀仏先年恩田の物語、先祖述の源氏、  
まに此地、居住のより、恩田は、  
此年ある数代は、

○御嶽社 百人町、光

○長者丸 百人町の南

江戸村あるを、  
丸をよ、  
いふ所、  
ま、  
黄、  
長、  
老、  
者、  
丸、  
に、  
近、  
也、

墓、  
山、  
に、  
在、  
り、  
て、  
其、  
名、  
を、  
以、  
て、  
呼、  
ぶ、  
也、

○長者の墓 長者丸

里、  
に、  
在、  
り、  
て、  
其、  
名、  
を、  
以、  
て、  
呼、  
ぶ、  
也、

上、  
に、  
在、  
り、  
て、  
其、  
名、  
を、  
以、  
て、  
呼、  
ぶ、  
也、

何、  
れ、  
の、  
名、  
か、  
と、  
い、  
ふ、  
也、

○姫下坂 同所

里、  
に、  
在、  
り、  
て、  
其、  
名、  
を、  
以、  
て、  
呼、  
ぶ、  
也、

道之

○香目橋 又釣匙橋 或國府方橋共也 世麻布の内橋

南加多路云古老の説此所曰名國府方村云云

國府方村云云 此説可考之 此紫ノ之奉 武蔵守

部小貝の卿の村多敷 小貝村云云 或心村云云

代記云又江戸麻子ノ所香目村云云 香目村云云

或云江戸麻子ノ所 鶺鴒橋云云 鶺鴒居た云云

云云 江戸麻子云云 大町云云 經基村云云 之川昔

北川ノ大町ノ天宗ニ平長望を經

下総國相馬神宮井郷内裏を立六孫王經基武代の都

郡云々 羽云々 相馬ノ村 其傳を記して下リ 其由然

北川ノ村 其村の司馬ノ村 其由然 龍川ノ美を

其て旅人を其 其村 其由然 其由然 其由然

日ノ記云々 其村 其由然 其由然 其由然

三月源氏義實所旅陳の時其名をいひて其由然

釣匙村 改めらる 其由然 其由然 其由然

云々 釣匙村 其由然 其由然 其由然

其由然 其由然 其由然 其由然 其由然

其由然 其由然 其由然 其由然 其由然

其由然 其由然 其由然 其由然 其由然

貞和云かぶら村の如斯諸説多し中  
國府村の説誠なる事 酒井 少人の御年一  
天正の江戸巴郡の圖に此圖之行分記し  
疑ふ事少し古書に予し總覽に 至如徳園に  
たゞの敷方 法を考ふる 國府方に此  
南向を流の記に 通至し 符令し 子記の 疑惑を  
○五色梅

再板江戸ゆふふ長者丸高木主水正殿下屋敷の  
け梅紅白の内、五色の花を又も新にちき物を  
○主水町

高木主水正殿屋敷に云ふを同書に引

○法谷重國屋敷跡

同書に云法谷の当時周部内晴正殿下やその地は又富氏慶福と  
云者の屋敷跡と云と云

○通明殿

右周部家別墅の名に此地四時の遊賞悉備まりと云と同書に引

○五段田

同書に引長者丸長谷寺に青山家やまのうへ近に  
と云と云

寺院

○戒照山 高德寺 淨土宗 知恩院末 青熊野社近也  
可山

○長青山 寶樹寺 梅窓院 三宗 左末 同所 久保町 青山 大  
區 寺 南側

可山 觀智國師 寛永年中建立  
觀智國師、今の吹上の所庭の内を屋敷に建て、即國師  
屋敷に建て、寛永十二年、江戸古伝國師と云ふ

本尊阿弥陀 聖德太子の依三社告りし彫刻故に三社の作しと云  
并基青い家へ青い忠役幸成之又才の路を隔てて片住り、銘々  
菩提所なりし屋敷の中を、幸成の寺、街道より南側なり此

梅窓院之忠役の寺、北側より今の玉窓寺也

△奉平觀音 境内 金佛 千手坐像 御長 三寸三分

抑天竺より大唐へ不空三藏傳來し大唐より鑑真大師東朝の

時此像の作りて天平十五年癸未二月十七日聖武帝へ献し、亦同十六

年行基詔ヲ受テ此像を南都大佛殿の側に移し、其後冷泉

院の御宇源賴義入奥州追討使に補せらるる時此尊像を奏し、下

陣中の守護より奥州伊達郡に御宇を建し、御供料を号附せらるる

其後に播太郎義家清原氏追討使に補せらるる軍、勝利を得

歸路及び此觀音に御供料を増加し十二口の僧坊を附置せしむる

右大將賴朝存原泰衡追討の時、御塔供料を増進し、亦不

天正十五年丁亥十一月廿二日兵火のため、御寺僧坊悉焼滅し旧録、後丁  
事ゆ、是迄の縁起、泰平御寺の別當僧西慶慶天正十六年  
二月、主言、石仙真象の臣鏡本中後、も人我屋鋪の廊内、  
御寺を建て、安んじ、長四年十一月伊達家にて、松家と夜討の事、  
又其兵火、御寺焼失し、去り、その後、あゆく、存せり、世世高貴の  
方より、やむ、ゆる、御事、侍り、御府内へ、移り、奉り、青山家の  
守護、尊く、ゆる、存し、縁起、こころ、

△撰地藏 慈覺寺何所也 当院九世の現任順譽唯然和尚夢中  
感得の靈像也

△百濟輪新 享保の初、大和國百瀨より、縁山へ、下向の僧、  
託り、梅家精舎、鎮せり、し、亦く、衆生を、渡さ、こ、也、依、し、一社、造、之、  
り、衆人、誦、經、を、祈、り、が、冥、冥、也、祠、者、白、狐、の、り、一、迦、隣、の、民、  
折、節、を、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、

△拾櫻 乃世峰、春久、つ、あ、し、苗、友、を、拾、ひ、身、を、抱、き、  
し、と、今、大、木、と、わ、り、し、部、心、ゆ、き、と、こ、こ、也、

△惣門 長青山の、殿、黃、慶、暎、山、禪、師、の、筆、所、

○竹園山放覺院 天台宗 山王末 同所

并山

△心見觀音 聖德太子作 名木・築き、こ、り、り、

○南命山善光寺 信州善光寺宿寺 尾寺 同所

本尊祖師中時姫秘佛也 中時姫の廉名号と云ふ可なり其れ

五石 当寺元禄の比迄谷中より宝永の比爰に移り旧地を今

谷中善光寺前と云谷中より根時より夜の上より松平伊豆より下

屋より裏つありの玉林寺の地面の内也

○繫國山青原寺 禪宗 生野 竜徳寺末 同所

開山

○崑崙山玉窓寺 同 青松寺末 同所

寺傳云開山善光禪師開基青山家川口長三郎近次室青

山伯耆守忠俊也也則当寺開基より慶長六年六月廿日

没法より玉窓寺末大師ト云リ

○普陀山長石寺 禪宗 曹洞 大中寺末 長者丸

開山門庵宗関和尚

江戸砂子より天正十二年溜池の上より移り本寺観音和州長石の

移り立像壹丈六尺却頭長石と同伴と云

此寺始龍中院と号せしが元長石寺と改む

△鎮守小松原 菟荷

△古佛倉 古佛数不知名佛と云希世の灵像の

一庫に充滿せり維摩の文章もつるごとく境内九三石中一余

り云古木枝を交へ大明寺中つと三所并左に大木並ぶ云

中に殊に目をこめてある。高野真木。大本根より、若尺計上り、好葉  
 四方へ散りて、誠、珍しく、其木は、其境、我如く、江南の傍地  
 ありて、江戸地、麻、名所、大寺、も、其、又、云、山口、家、信、云、当、寺、昔、山、口  
 重政、并、其、子、加、藤、の、内、と、分、り、其、地、所、に、由、り、沈、み、沈、み、と、云、ふ  
 重政、母、子、の、為、に、教、立、て、り、也、又、母、の、御、田、信、秀、の、家、臣、岡、部  
 秀、九、郎、正、房、也、其、元、二、年、乙、丑、三、月、廿、七、日、九、十二、日、大、火、に、江、戸、を、強、火、  
 法、号、長、谷、寺、殿、南、室、妙、蓮、と、号、し、其、元、故、有、り、山口、家、の、境、是、在、  
 不、殊、所、也、内、に、引、取、り、長、谷、寺、と、境、を、隔、て、り、と、云、ふ

○ 青山 海藏寺 禪宗 黄蘗派 攝津瑞蓮寺末 青山  
 岡山 宝州和尚 中興密山和尚 寛文八年 起之

再板江戸妙子、一切経、当寺、出、て、り、と、云、ふ

○ 微妙山 実相寺 禪宗 月桂寺末 同所  
 岡山

○ 龍石寺 禪宗 八雲 鷹岡寺末 青山  
 岡山

○ 杉壽山 梅嶺寺 日蓮宗 本國寺末 同所  
 岡山 日蓮上人

○ 蓮栄山 持法寺 之寺 本成寺末 同所  
 岡山

○ 蓮光山 妙円寺 之寺 小湊末 同所



可山

○稻荷山円通寺

禪宗妙心寺末

所掃除可

御国石御掃除臥板倉殿河より少人願登依青山宅地

○長徳山妙行寺

日蓮宗

本成寺末

権田末

可山

○慈光寺

真宗

原末

可山

○大宝山長安寺

淨土

智恩末

可山品卷上人

法谷

法谷之天盛庄と云ふ、龍見左京負重入道此所より坂本  
家系之貞重子龍見平次少将之重明武州法谷に任元弘  
二年癸酉三月十二日武州入河川合戦に討死す(即)

○法谷八幡神社 法谷天台 別号 法谷山東福寺

康平二年村岡五郎良文の苗孫川善三伏守基家石清水八幡宮  
勸請嶋子平三重家金王丸少将の代々鎮守なり金王丸の村岡  
五郎の法谷を以て其昔の大社とて天盛七卿の産土神と所謂七  
卿の法谷代々亦其故殿上着麻布一斗と弁等と青山の法谷

の内也と云う

可成月鎮僧云 養和元年、最り時百十一歳

△正八幡 神伴 弘法作 應神帝尊像

△月輪御旗 神伴、凡夫持中、此旗也

御旗、長元五年甲午、源頼信、千葉忠常、退治の御札とて

八幡の旗、鶴吾、奉納有り、日月二流、村岡氏元、玉子、折入

多家、身洲、征伐の時、此二流、杖、挿く月の旗、當所、いふをて

此旗、本と、是、鎮中の物なり、

△子安薬師 行基所 源義朝の子傳く

△矢指観音 唐傳 浩岩金王丸傳く

△金王丸像 自傳と云

金王、金剛夜叉明王の再誕、依し、権名を金王と、是、上下文字

平治元年三月、浩岩、冠者、常光と、云、保元紀、亦、述せり

死生、一、と、云、と

△金王梅 境内有り、おりの名を憂忘梅と云

久壽年中、源多朝、鐘会、鬼ヶ谷の館、拉らば、一憂忘梅を、金王

丸、と、云、地、浩岩、と、云、来り、鎮守八幡、と、云、う、さ、の、思、持、文明

の、此、昔、金、長者、と、云、不、有、浩、岩、の、末、孫、也、疲、病、の、難、何、神、託、の

り、此、灵、木、の、奇、特、と、云、病、難、を、の、う、と、江、戸、初、め、何、紫、の、一、本、

此、梅、枯、け、も、鉦、叫、養、珠、院、林、此、梅、の、実、を、以、庭、に、植、き、也、云、云、

佛内法在善入の金丸の子孫ありしやうに元承の梅枝とて難の  
せむい其実植の本を善入のむら植継ぎたる今の金丸梅を叩く  
よと記す

△鎮守の松 境内あり

江戸砂子云天の四年正月十三日北条氏綱と上杉朝興高慢  
の原に戦ふ時氏綱後陣大導師八郎善法各一攻入故大川時  
尊像大松の上の山にありしを丸まゝかく名を大松姓古  
三三株の神木なりしを三株の境内に三株あり境外に三三株  
ありし

○誕生の池 八幡社より西のふた所金丸誕生の池

○金丸城跡 八幡社西

江戸砂子云馬場の跡の跡築地の所を移り古井あり法各氏代  
の城地といふ

○河原の庄司次郎殿 八幡の西坂のふた所あり

同書いふ大坂築地ありしを庄司次郎の遠海の時いふや  
六郷の川原の川にありし山王社あり是れ其時引之を稲荷社と  
す

○姉尾平次左衛門光景邸 同也

同書いふ是れ築地馬場をのれを移り光景の馬場  
ありし地あり清冷なる水也傍に馬つるがの榎あり

○甘露水 同也

同書に、天慶三年に孫王経基智所、旅宿有り、時、其を捧  
ぐ、味、美、甘、あり、と、記、す、と、い、ふ、は、あり、と、い、ふ、

○玉池 玉池と云所也

同書に、天文の北早魁、河の流を止、井涌出、  
常、過、行、一、婦、れ、を、汲、釣、瓶、一、の、玉、を、得、  
玉、精、其、婦、託、其、是、八、幡、寺、の、神、聖、也、大、水、の、其、火、を、除、  
并、行、一、連、神、祠、に、納、む、と、い、ふ、玉、珠、今、東、福、寺、に、  
在、り、是、を、玉、の、井、と、云、り、今、玉、池、と、も、い、ふ、所、の、水、を、  
○休候塚 一名古我昔塚 百人町の通田村隱岐守成下丸  
金玉丸の見場と云、傍、方、二十、百、方、丈、余、是、一、二、三、里、が

百、の、り、者、一、百、五、十、元、は、元、後、の、山、を、眺、み、  
眼、を、苦、く、困、り、多、く、有、り、と、い、ふ、同、書、に、  
○鎌倉街道古道 七、八、幡、下、道、の、う、ち、を、  
○神仙水 八幡の西  
其、の、一、定、許、仙、人、の、石、を、奉、り、不、老、長、生、の、心、薬、を、  
其、水、に、以、り、神、仙、谷、と、い、ふ、同、書、に、  
○鉾山 右の東、左、法、道、仙、の、許、は、  
○朝霧の滝 法各

其、の、一、定、許、一、法、各、宗、明、と、い、ふ、長、者、何、  
何、年、の、在、田、照、寺、の、梅、を、詠、む、と、い、ふ、母、の、  
撫、子、娘、と、い、ふ、娘、と、い、ふ、

吾輩と云ふ聲有り、娘をたて妻を色、と思ひや、舟中、は海評、  
身を括たり、と回著、とあり

○願山 カズ 右の山、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
ちり、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

○稻荷社 上法各 神皇山王社家、川、河、神、持

○鶴沢 ○羽沢 ○鶴谷 法各、内

江、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
同三月、卯、を、お、り、依、り、持、り、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
い、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

○法谷川 法谷川、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
法谷院、末

○氷川社 法谷川、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
相、付、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
△常盤の松 氷川、境内

里、法、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
孫、青、人、の、松、の、下、一、万、代、石、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

○道玄坂 法谷、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
江、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、と云ふ、  
五月、教、通、何、し、和、日、一、族、と云ふ、と云ふ、と云ふ、

賊と結成の形にこと江戸妙法寺

○道玄物見松 道玄坂をより馬坊の原より土を向て用水を涌れ四辻のまゝあり古木

○馬車沢 世多谷一行の道

○寝神社 同所

江戸妙法寺又治四年涼乳朝奥州奉衝征伐の時法各八幡茶籠り荏原野より東條菅元の馬踏たを禁心一八幡を神馬のむの其まを馬河次と云其傍に休む所を寝神の

○淡島大明神社

北沢町 別当増善寺 森蔵寺  
中目黒馬場と京浜線園の御用をこころ下  
享和三月十九日也

### 寺院

○日蓮山妙法寺 日蓮宗 池上末 坂下

○日蓮山妙法寺 日蓮宗

△日蓮聖人法 日蓮上人作

日蓮上人度解より海傍の向ての湯を指す水上。其木  
るるるる 日蓮上人の法 日蓮上人の法 日蓮上人の法  
了身より手海邊より 日蓮上人の法 日蓮上人の法  
殊に群れをよそと 再板江戸妙法寺 日蓮上人の法  
考へて法行より 日蓮上人の法 日蓮上人の法

○普光山吸江寺 禅宗妙心寺末

甲山 石津和尙 此寺古く極楽寺なり

○天准山妙法寺 淨土真宗 宗廟在 寺内 中法宗

甲其

○禪河山東北寺 禪宗 妙心寺末 下法乃

甲山

貞雄云東北寺 吾師之師行康卿之師母山樂山乃

師位階なり

曠中院殿達若善通大居士 天正七年九月十五日

清池院殿潭月秋天大師 天正七年八月廿九日

傳云往昔酒井左王の時忠次大久保七郎等 忠世 信康

君の兩子に 此の寺の末の 此の寺の 怪の 信康

身中 是の 名 信康 弟 善通 所 乃 善通 善通 傳

友人の 親友 此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

あり 此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

毎月 代 善通 傳 此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

有り 此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

乃 善通 傳 此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

此の 寺の 末の 此の 寺の 善通 傳

○天隱山 龍峯寺 禪宗 妙心寺末 下法乃

甲山 妙應禪所



○沼谷山福昌寺

禪宗下谷高岩寺末

同所

○山桂岩禪師

○源秀山室泉寺

真言宗

泉州神風寺末  
三光寺觸下

同所

○山映山惠空和尚

○瑞泉山祥雲寺

禪宗

大徳寺末

同所

○山孔岳和尚

当寺之祖田原守長政之并基也長政の法号

祥雲寺院之系江戸妙子云当寺元善授元之由之何は外

方之沢原寺の法号は一は海中市南河之移りて寺之十

谷所より坂を上り左の町家河所にては当所に移り世に平良の

祥雲寺と云ふ地廣度之地也寺之云傳人たとの

塔頭

東江寺

暈徳院

隆興院春宵院

天柱院

無常菴

香林菴梅玄菴

○長泉寺

禪宗

青松寺末

上以石

○并山

○慈光寺

淨土宗

東本願寺末

原宿

并基

世田ヶ谷

以任原郡也此等の年云 温谷と軒外と馬引坂と所を  
通すもこの江原村と云江原村と吉良吉良十五万石の  
時の村下也世田ヶ谷の所と云

諸家百圖の吉良吉良十五世成高の成所世田ヶ谷と云  
其在女前作教康と云

○九品山唯在念佛院淨真寺 淨土宗 真実村

开山超譽上人 珂政和尚 延宝六年歿之  
吉原の吉良氏の地を以て吉原の田舎を云

○ 歌坂和 湯沢 浄土宗  
大正十一年 浄土宗 浄土宗  
大正十一年 浄土宗 浄土宗

○九品佛

江戸ゆふ云九品佛一艇々々田光のちりて佛一千十一艇九品  
の山佛九一万百十艇可各坐像丈二尺四寸の像後光の中より佛  
一千十一艇其像佛九三萬二千艇也

珂碩和尚の世叫の人姓の野村氏と元和四年三月朔日生れ十八年  
生美ノ大嚴教まゝ入して隨流和尚の門下珂山師の弟子と成り  
寛永十三年珂山和尚没す入流して灵岸寺力二世と此時珂  
碩随りて灵岸寺入時江東の海傍に移りて珂碩と命りて  
土本の事を司らるるに一日夜心力を勞る本を力丈五尺四寸  
下敷年一と功を成り其徳り世に名を傳へ也師一日三齋を

野にて造佛の事と云る寛文四年丈二の一作を成流を同七年上中下  
品の九艇全く克足と別記也佛丈二の像を造りて灵岸の地  
にけりたつて二尺四寸の像を造りて海中に置ふ此時珂碩和  
尚に御州より是をよみて乳教 祈りて切りて久しうす  
佛像像を本所へ海に近き二年其地の御民の拓きし所此  
地と云ふ時より上丈二此地に寂吾心の叶ひ終馬の地と  
其に九品佛の像を灵嚴寺より移し草を毎まはれ是より九品  
佛をこの地の名とす 近き八年庚申八月 振五月六日今曉丑申刻  
大凡都く草を倒臥し佛像を毀り師又是を修補し  
元禄七年甲戌十月七日入寂り毎年四月二日と十一日と許り

十部竹のまろき

○大溪山 豪徳寺 中興 禪宗 再興村

開山馬車 昌尼 禪所 中興 間解 戸美 禪所

心中 眞 大極 秀道 禪所 文明十二年庚子 豪徳寺 再基

是と吉良 西忠の伯母より 則 吉良より 是より 江戸 砂子 書

是 徳之 西忠の妹より 成高の伯母

○延命山 晴光院 寺在 三石 世田ヶ谷

開山

当寺 吉良より 用代 成高 長男 吉良 在 聖代 頼原の 再基也

則 頼原の 法号 晴光院 殿 取山 淨教 大居士 云 天正十五年

西十二月五日 辛吉也 然りて 頼原の 朋 齋 相良 蔭田 勝

國寺 蔭田 蔭田 氏 今 蔭田 居城 何 故也

○ 實相院 同所 松 老 村

開山

當寺 吉良 在 其 用代 頼原の 養子 實 今 川の 一族 内 哉 治 部

少 輔 貞 是の 次男 吉良 在 其 代 氏 朝の 再基也 氏 朝 駿 州

の 瀬 名 陸 奥 守 一 秀の 弟 也 氏 朝 今 吉良 在 用 賢 美

豊 至 九 七 代 及 今 氏 朝 法 名 實 相 院 殿 學 翁 玄 參

大 居士 慶 長 八 年 癸 卯 九 月 六 日 辛 吉 也 位 塔 石 塔 在 存 也

新編 江戸志 卷之七下

麻布 阿左布共又麻生共

麻布の号は此所多し川より近き所は阿左布といはれし麻布を  
 多く、他は多く布を織出せしもの名を之と多し神も  
 布多おと云々と調布を多く織出せしもの名を之と多し  
 記、武蔵野合戦の条下、見玉堂流羽毛利家平 作流生 四方田庄柳  
 井と出河を武蔵の伊人なるに海生なるに、又麻布の号あり  
 政事要略に定諸國例進地子雜物支

武蔵野調布九百廿六端 細貫廿七張とあり

相傳云善福寺の山へ往古麻布なりしが麻布山と云つるを累  
乙麻布山と云つる此説信用もたれ

江戸ゆき云 阿左布七村と云 竜土 堀田 谷町 市角

六本木上町 龍巻 是ホ何れも所の小名也ト云

○稻荷神社 俗久國稻荷 谷町鎮守 別当三室 岸邊山 林昌寺

当社旧地、溜地あり其所に神木を授けりしと江戸ゆき云

○御草子町 谷町より南部及び方へは可

○三屋谷 谷町の先を三三三谷と云は三三屋谷と云

出りて屋の家三軒をいふ故に名付りし

○谷町 本下肥前屋敷後、谷也再取江戸ゆき昔此處

凡る百遊廿四の事

○藪 稲荷 市角町より江戸麻布子あり

江戸ゆき不動態の稲荷ありしと云ふ人心を驚かす

○市角町 町名より名に黒塚市角町と云

○龜前坊谷 同辺上杉家の一町と云ふ

崇源院慶應寺の時大火の念持寺建し所と云

寺に増上寺末寺杯の田ありて大火をりし

百遊記より此處をいはるの御台 宗保院院の大火

の龜前を云ふ跡ありしと云ふ道あると云ふ彼の大火

旧地に今現に麻布の本水光明山浄廣寺の境内に垣跡をい

古河火葬の跡なりと説き、古河寺といふ明白、既に此書に  
浮屠寺のありし事を記し、赤灰塚の碑、何れ書し、もと  
而火葬寺といふもの、偏りた、かた城石、所説前書の違ひを  
江戸神子岡地蔵の語、一は此の如し。

○紅葉有敷 市並河伊保左様次流石のきり

○神宮寺 市並河伊保左様の家の前にありし所

○幸國谷 市並河伊保左様の所にありし所

○鳥居坂 長坂の西裏道より一本木より一本木の間にありし

江戸神子岡地蔵の坂の上、もと丹州侯の邸ありし、赤先祖義兵  
の所居なりし所なり、由今、西橋本表の所にありし所なり。

一説に、麻布氷川神社より、大社寺より、二の宮、三の宮、  
ありし所、三の宮は、長坂といふ。一は、  
又云、鳥居坂、長坂より、居候の人の名に、  
○長坂 江戸稲荷のより下り坂也  
江戸麻布より、大田原のより、坂也、麻布より、二の宮、三の宮、長  
坂のより、名付、もと、或云、備前、は、人の名、成りし所なり。  
○世継稲荷社 長坂左側 根津別荘 龍王殿持也  
石階高き故、高稲荷といふ。

真推云、此事故、甲府の御殿、旧跡あり、と、一田板、江戸、河、  
甲府の、而、や、は、稲荷の、一、一、今の、稲荷の、地、其、地、全、

帯のなすも早し其比の古絵圖を所持しけりぬ

○雌狸穴 長坂の東

早坂の東に穴ありて其穴の形は、  
穴ありて江戸の形に似たり可成り  
は、穴の形は、江戸の形に似たり  
可成り江戸の形に似たり可成り  
江戸の形に似たり可成り江戸の形に似たり

此の穴は、昔の穴の形に似たり  
可成り江戸の形に似たり可成り  
江戸の形に似たり可成り江戸の形に似たり

○昔の穴の形に似たり  
可成り江戸の形に似たり可成り  
江戸の形に似たり可成り江戸の形に似たり

○日ヶ窪 長坂の西を利根坂守成りきり所

今長坂の西の口、所成り南日ヶ窪と云ふ  
紫の一車と云ふ本亦より下  
の南の谷也南の日ヶ窪の日は、世の人の  
いひよも、日ヶ窪の

○宮下 今長坂下の谷河也此谷ありて日ヶ窪

直隴云鳥居坂の事、今長坂の  
いう、古くは、鳥居坂の  
事、今長坂の、鳥居坂の  
事、今長坂の、鳥居坂の  
事、今長坂の、鳥居坂の



ひらきまの坂の道を歩き ちかき坂をめぐりて決  
まらぬ氷川の神のちかき坂と書し ちかきと云ふ  
ちかき

○ちかき殿村 宮下の山溝の石村なり 坂をめぐり

ちかき ちかき坂のちかき ちかき坂のちかき ちかき坂

○茅洗坂 日ヶ窪より茅洗坂へ上る坂

坂下 稲屋の稲屋の持り 毎年秋に上り 茅洗坂  
のちかき 稲屋のちかき 日ヶ窪より ちかき坂

○朝日稲屋社 日ヶ窪 其の稲屋のちかき 徳島院

日ヶ窪稲屋のちかき 朝日稲屋のちかき 稲屋のちかき

○六本木 日ヶ窪の北の山 上は六本の松に本なる

○温鈍坂 六本木より日ヶ窪へ下る 茅洗坂の中程より下る

○山伏塚 阿部氏の墓の内にあり

往古より奥州海邊の山 大木の松林のちかき

○極田町 一名百姓町 六本木の西

昔は六本の時より極田の百姓のちかき 地をめぐり 百姓の町を  
さし 百姓町のちかき 江戸のちかき

或は櫻屋長を本名 極田氏名と 其時 十兵衛 山田某の三人を甲  
川の浪人也 武門極田のちかき 江戸のちかき 地をめぐり

移しを皆草分の者也

○霞山稲荷社

別名

天台上の木

五台山観心院

昔もあつたやう梅田外地の近所に移りしこと

縁起は不詳社武元天皇の御人治をたゞ草分の草創と東鑑  
云治承五年十月下旬に朝公狩行の歴覚なる稲荷の御心出  
御北東し乃ち狐の御心出のあつたりお朝公天を放ちてふ  
多勢四巾風信の侍世の丹之供奉り同時に天を放つ丹三つ矢足  
何たり次の日また麻布の御心狩りあつた稲荷の御心出の  
穴の焼狩りせし草を身も運ぶて人俄に狂れし神の昔の  
こと頼朝をすし凡そ自ら陣中毒流も停止しし五台山社を

建し稲荷大明神の崇む其後右大狩を天下を治めり此國のや後

を至花園の地頭を去る奥州街道に墨田りて限りあつた社爲し要害

を構へりあつた御心狩り長を奉り往還を改む時新田

式や右捕義國

足利義國也多ぶ子也  
新田に於れ社付誤り

御心狩り寺の地頭尼天の

係を秩父重康内陣の安をす其比鐘会高の獄神或寺の位

侶家慶の弟子観明房秀慶と有願の信り彼重國立鐘会

の時是をすし我れあつたいんまむ稲荷の別名観心院と云

り信州江の島にあり春日の御心長三尺寸の観音の像を得り

是源頼朝の守をたたり其人是をすし即稲荷の本地佛に

文治五年頼朝が伊達春衡退治の時神立ありし年の板田村五

百七丁石の所を所ある付所供用板木を括たる所世人板田といふ所の  
年中一老田通流当社再身ハ慶長ノ此板田浦地ノ久々此  
地後ハ寛永元年又麻布ハ逸せしむるも此板田より  
此所ハ近きまはせしむるも此板田ハ此所ハ可也板田所  
と改むる也

○一幸ノ松 一名冠ノ松

江戸村あり云天保二年三孫王経基路叫平将明の替りて  
歸汝ノ所此川を越て龍川ハ竿打。此所ハありむい民家ハ到  
病行主の賤栗飯を柏の葉こしらへ捧ぐるの日の装束を  
麻のより衣し替へてかの装束を城立き一冠ノ松と云むを得

民家ハ後村と精舎とあり祝王院とよそ  
寺法乃ハ情楽福寺の本流をこす此の管轄らば一松と云はれしり  
か

三孫王経基と王孫としかるも此武威と云へ  
人ハ此の麻の持衣着ありあり古伝云はれ世の  
推の説也又冠ノ松ハ一冠ノ松と云ふも此の  
より又冠ノ松と云ふも一冠ノ松と云はれしり  
冠位と得たり本

○栗飯沢 同彼の栗の飯をまいると云

○相生坂 一幸ノ松の所栗飯沢より江戸村子再板と云

○氷川社 麻布惣持寺。別当直言直心寺末。徳正寺。

当所の産土神と多岐九月十七日。再板江戸村と云ふの年中。

大田通清部世一の女の氷川の神と御産と云ふ当社田地。麻布

切通一と云増上寺。退隱の地が。社地ニ子母の糸のを平

松。当社の神木と云ふ一本松の記も色。何れとも。彼の松の記も

。徳正寺。当社別当より。師来より。是れ私に地。當社の神木

。云々(一)云々(一)

○米廣稻荷 麻布坂下所の徳寺。神主中村日向守。

再板江戸村と云ふ。慶長年中。當所子刺の徳寺と神主の柳木

。枝葉繁へ。梢大に。度に。是を扇と云ふ。世人未度の木

と云ふ。云々(一)云々(一) 神主の徳寺と云ふ。

○竹町稻荷 同所 別當 龍王院

○見 稻荷 麻布六軒所

○仙臺坂 松平陸奥守下屋敷の所

○麻布御殿跡

再板江戸村と云元孫の比。麻布御殿と云。今。武士の。此地

。此地。云々(一)云々(一) 故。富士見御殿と云。云々(一)云々(一) 此記れ

。云々(一)云々(一) 此御殿地。御殿。云々(一)云々(一) 事。云々(一)云々(一)

寛文年中。延宝年中。の。此地。御殿。云々(一)云々(一) 依。其側。の

。御殿。御殿。云々(一)云々(一) 天和三年。延宝十二年。九月十九日。土屋相模守

政直下屋一々并竹りて来きて子孫を誂し土を下の下りきし  
依り波竹も相換殿於し唱替り又此古園を以て并竹よ御系  
園よりりしと土を乳へり地下きこしとて御系園を白山に被  
さしこしとて江戸砂子を御殿を建らうとて御系園を白山に  
移りしとて御系園を白山に

○小町社

南の廣尾の内の竹の町珠敷と名をこし  
按りし町の名をこしとて況もさうなれ政直并竹の町を本  
幕府官舎居局のありし所をさう西の二方にありとて此の町  
は所を限るなりとて安にありし何れも此の町を知りたり

○廣尾

江戸砂子の平屋の作に非也平屋は板板なり廣尾もこり  
人の説也或の廣尾御殿は此の町なりやこ可成説  
は地名尾と子道の事也とらえは安を在るなり

○稲荷神社

同所 子花寺の村

連理の根 根より根を括たり又根と栗の根より一丈程は  
て十文字に行合ふを幸どらばは枝葉葉を是れ連理成るま

也

○十番

新坂曲り目の所 馬場向

元を芝西應寺の脇に往き馬場を流まきとて海を以て敷し  
内を云ふは南都馬の市場とて是を御守故而用地に揚りしとて

代地をふくむ所仙臺野の東に吾月二十二月の内三度市  
河の初見と二日の三日の云を御馬工即七人河福田河太き  
成矢部ホの家七人河

○日向橋 新橋のうらま麻布より山つり所也

○日向坂 三田より河の坂也

毛利日向守成をきりしに村中坂の名をたるとす

○相模村 一名神皇岡也

自銀新橋、かゝるれ西岡ありと天和三癸亥年十一月十九日之夜  
お摸守成下りきおれありお身と相摸で〜唱了例を  
神皇岡の相摸坂坂と呼びきたり

○多田推現社

雑色村 中野宝仙寺末 如意 宝福寺持

○氷川神社

三所 宝仙寺末 正藏皮持

### 寺院 兼 寺中、神社

○麻布山 善福寺 西本願寺末 寺の十石 雑色町

開山了海上人 親鸞上人の弟子

本尊阿弥陀 惠心作

江戸砂子云往古、当寺天台宗を開山了海大凡四百  
余年の古蹟ありと云ふ親鸞上人常陸の既所より歸京の時、

当寺、剎宿り浄土法門の上、了海信、及び上人の弟子、即  
一向専念の行者と仰り真富の道場、改むこと

△藏王推現 一名麻布推現、不幸を蒙り了悟を不  
得、海へ入るに、期す、いざなふ、我滅く神と仰り、  
当所の衣を穿て、七月五日、寂り、毎年、さるる、さるる、  
神の、当いを復し、山と云、復の、流、似たり、なり

△拔 亮脚 幸事の左の、方、向

親屬上人の、拔り、祖師も、所、あ、各、時、は、法、弘、ま、く、く、此、拔、枝  
葉を、あ、ま、ま、と、庭、に、お、の、け、所、の、木、今、大、木、と、仰、り、枝、葉、が  
り、たり、乳、も、婦、人、の、衣、と、して、瘡、け、き、寄、持、り、り、樹、を、ま、く、り

野、く、く、枝、葉、を、た、ま、ま、と、垣、に、し、其、の、ま、ま、と、ま、今、祖

師の、御、供、を、い、ま、ま、乳、も、ま、ま、の、其、験、り、江、戸、の、あ、ま、り

△庶島 清水 廻、つ、つ、の、る、江、水、と、云、乳、り

江戸、あ、ま、り、此、法、の、祖、師、聖、人、庶、島、大、の、神、り、り、清、水、の、所、の  
水、と、云、庶、島、七、井、が、り、を、其、一、と、つ、乾、井、と、云、了、と、云、

△い、ち、り、柳 古、木、ま、ま、若、木、と、云、此、の、水、の、側、に、り

相、沖、を、云、往、古、弘、法、大、師、回、國、の、時、あ、り、揚、枝、を、ま、ま、此、杉、七、株、  
今、ま、ま、大、木、と、仰、り、其、指、に、自、ら、麻、布、の、旗、の、く、成、り、り、一、流

ふ、り、り、因、こ、当、所、を、麻、布、と、云、麻、布、の、山、の、略、語、を、り、り、此、杉、七、株、  
を、ま、ま、り、り、り、り

何れもふし麻布降はらひ大也昔は山島に麻を織りし麻  
 田をアサフとよみ日本書紀にも豆田マメノ粟田アハフと訓ふ  
 くのや外に蓬生ヨモギノ又浅草生アサフの類におぬ  
 武尾國に調布を云つてはしりて貢物にたりし麻也麻  
 田をふくまのち麻布身しりて一也花布もふく記す

塔頭

- 善通寺 善通寺 金藏寺 福泉寺
- 専光寺 西福寺 淨廣寺 貞福寺
- 祇名寺 西重寺 善興寺 淨泉寺

○ 臺寺 洞家 真壁傳正寺末 對色町

○ 一松山長傳寺 淨土宗 知恩院末 一本松際

○ 甲山 心卷上人

○ 實相院 禪宗 田覺寺末 雜色町

○ 法隆山千藏寺 天台宗 山王末 宮村町

○ 今井山光隆寺 日蓮宗 隆山光長寺末

○ 明見山本光寺 日蓮宗 本成寺末

○ 法久山安全寺 同 本土寺末



甲山

○祥雲山龍沃寺

禪宗 青化寺末

同所

甲山

○正東山本善寺

日蓮宗 本土寺末

同所

甲山 本善院日東上人

福壽大星天安置

○西高山祢念寺

淨土宗 知恩末

新所

甲山

○清涼山住心院

三 三

同所

甲山

○松宮山專心寺

三 増上寺末

同所

甲山

○光明山遍照寺

同 麻布教善寺末

新所

甲山 誠蓮社證卷上人

○松榮山妙經寺

日蓮宗 身延末

堀田町

甲山

○日通山妙善寺

同 小湊末

三所

甲山

○龍沃寺

上州墨滝 不郭寺末

本村町

甲山

○日栄山妙祝寺

日蓮宗 小湊末

堀田町

并山

○本樹山長幸寺

日蓮宗

同

同所 兼泉寺向

并山

○妙詔山兼泉寺

之

兼泉寺

之所

并山

○大法寺

之所

并山

○一向山三光院專稱寺

淨土宗知恩院末

之所

并山澄登傳郭上人 三光院清心比丘尼并是

朝日觀音安宅

江戸府の古本寺に長者丸の業末と云。院は三光院比丘尼安宅の  
の長像に此三光院と云。織田信長の婦一筒井伊屋の娘也尼、  
寺は坊上寺と云。此寺の弟子なりと云。

○瑠璃山正光院

真言宗

高野山 正智院末

同所

子安屋寺向 惠心僧都次 人皇中代一條院河降院の所祈佛

○霞山觀城院

天台宗野末

同所

并山

霞山稻舂院 寺の... 鎮守... 梅川地の時... 祐了

○惠林山月福寺

同所

并山

△聖觀世音 御丈のすか 高深提寺 昔人白字一ノ代  
 推古天皇即位十五年五月十八日南殿の御探し申上り申すに 觀音宗  
 現一日輪と相違し光を照すむゆを申渡したるは 恩得のまに別た  
 子と別しと申す申す此の宗客を授けうつ 又宝庫の宗度黄金を  
 以て其像二軀を鑄造し 世の一の像は土内ある 五心匠は師匠  
 納し玉虫三子佛の中子也 乃二の其像見を別た子と申す 其像を  
 法隆寺を建之 あるは西心申すの觀音也 日輪の其像も 所有  
 のまにその法將軍一其像を厚し此像を恩得 將軍は義海の  
 御子と 廣純院に安置せし 元慶の元武丸と名賊此像の圖像提  
 念をす 乃て盗し 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て

失せぬ行家内の男女の學ぶはけきい 東心大次郎の思は 孫は 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て  
 産まはるるとる行家内の男女の學ぶはけきい 東心大次郎の思は 孫は 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て  
 才の思は 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て  
 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て  
 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て  
 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て 乃て

- 五大山不動院 真言 長石 池坊末 市井 南所
- 壽光山淨因寺 淨土真宗 西本願寺末 同所
- 清性山普覺寺 淨土宗 増上寺末 市井

○生卷上人直至和尙

○法惠山大泉寺 禪宗 果大泉寺末 同所

○微好山真性寺 日蓮宗 池上末 同所

○廣榮山法中寺 同 藝州 岡前寺末 同所

○見生山崇巖寺 淨土宗 知恩院末 同所

○無量山林寺 淨土宗 同所

○叙兼念上人

○永昌寺 右所

○妙像寺 日蓮宗 口凌末

○石岳山光照寺 淨土真宗 西本願寺末 長坂

○大長寺 日蓮宗 藝州 岡前寺末 同所

○日登山清徳寺 同 小湊末 日蓮

○山最上院日住上人

○高林山法典寺

○山利生院日幸聖人

○洞石山龍興寺

○山

○光明山深廣寺

○山 專修上人 寛永三年己丑表之

台塘公の御事 崇源院流火火集の地を以て所成の御事

しりおん仁年丙子十一月火の火災に煙滅して其の地を以て

深廣寺

同 同

同所

禪宗 青地寺末

同所

浄土宗 増上寺末 二本末

寛永三年九月十七日所基所成御事

武州麻布野外、建大屋其一町四方攝假屋結廻り流落呂勢

固不申及其四方三重四廻以て鉄炮鑿如塔因之下略

按て慶源火元跡と申す、増上寺、寛永三年此所廣寺を起す可

りて見たり

○遍照山光專寺 浄土宗 増上寺末 二本末

○山 專修上人 寛永三年己丑表之

○長慶山教善寺 同 同 同所

○山 行卷善作上人 寛永三年己丑表之

○源廣山正信寺 同 同 同所

并摩蓮社當卷上人存存順故社和尚 当地の地母昆沙門を例し  
明和の比在屯地形せし時湧出涌出の如く彼れを病悩の病人  
あつて其疾の如く加持の并しと云ふ

○龍王山長徳寺 禪宗 長谷寺末 龍土  
并山

○白光山長昌寺 同 龍徳寺末 之  
并山

○長泉寺 天台宗 上野末 之  
并山 八幡社 神明社

○旭照山立泉寺 浄土真宗 西本願寺末 同所

○黄蓮山大円寺 同 同所  
并基

○信楽山故蓮寺 浄土宗 知恩院末 宮村所  
并山

○小涼山法庵寺 同 同所  
并山

○常住山長養寺 日蓮宗 身延末 日下境入  
并山 智仙院日蓮聖人

○仙境山春桃院 禪宗 妙心寺末 仙基坂  
并山 寺中自通庵

○萬壽の妙行寺 淨土真宗 西本願寺末 仙臺坂  
宇屋

○延命院 真言宗 南所 西本願寺末

○開山

○醫王山東福寺 天台宗 上野末 同所 西本願寺末

江戸神宮の当寺七佛華沙の傳教寺の作具中の一碑に  
本山の世尊覺土河佛法の通の爲に東下り玉ふ此寺を  
たむと下り玉ふと云ふ右田道灌の信に傳ふに河の左  
に一と云ふ神田の移し又此寺の院法而達三の寺殿の  
あり廣の改移と云ふ又貞享元年の地に移すと云ふ

江戸惣席の名所大倉の六孫王經基寺奉る傳教寺の作  
具兼年中極に象の巨碑を移しありし宗教に長祿  
年中一右田道真武州河越の地に移し又の八年道灌江戸の  
あり玉ふと云ふ右寺を奉る寺の右に伝法寺の爲に  
是は祈禱執り行ふ九年奉る寺の右に神田の爲に移し  
依り神田の爲に奉る寺の右に傳教寺の爲に移し  
奉る寺の爲に奉る寺の右に傳教寺の爲に移し  
寺の爲に奉る寺の右に傳教寺の爲に移し  
江戸神宮の隨一に大御建之地あり上吉の仙傳寺あり  
末院あり其眼右河の時寺殿の末に附し其眼を過し

慶左衛門の真筆の記あるところ

○ 西福寺 淨土真宗 奉安寺末 寺屋園新地場

并山

○ 佛陀山天真寺 禪宗 大徳寺末 同本町可

并山

○ 龍廣山田沢寺 惣大町寺末 同所新地場

并山 附山榮仲和尚

○ 日東山曹溪寺 同 妙心寺末 同所

并山 吉口和尚 寺中慈眼庵 翠芦軒

此門前をせつかうる

○ 慈眼山光林寺 同 同 新地場相摸村西

并山 盤珪和尚 当寺の市角町

○ 多耳山天眼寺 同 大徳寺末 所殿跡新地場

并山

長州の事 其族の係と御文三尾を捕凡本造り聖徳太子

の作多田満仲公の持子と慶長の比御信係其阿部損州

被奉其石仙石因品度して故を寺納り

○ 長昌山龍徳寺 同 妙心寺末 同所 寺屋園新地場

并山 無極和尚 冥奉信源三ヶ寺の内 寺以百石

○ 増上寺前大信正退隱の地 一本松切



江戸砂子白全目里の部之在りて大町之河増上寺下丸

賢崇寺 一本松 祐正寺下

○ 并基

○ 松本山徳正寺 浄土真宗 善福寺末 一本松

○ 并基

○ 浄慶寺 之 之

○ 并基

○ 福泉寺 之 之 誰式

○ 并基

○ 明祿寺 之 東本願寺末 相摸殿付

○ 并基

○ 浄泉寺 同 同 本村所

○ 并基

○ 西光寺 同 西本願寺末 后所

○ 并基

○ 徳養寺 同 同 本村中所

○ 并基

○ 長玄寺 同 同 同

○ 并基

○ 長安寺 浄土宗 同

并山 旧門 和尙

○ 東福寺

天台宗 上野末

谷中

△ 華師寺

○ 昌永山湖寺

禪宗 青松寺末

市南町

并山

○ 龍沢寺

同

上野末 不動寺末 本村町

并山

○ 本妙寺

白銀

并山

○ 吉祥院

本村

○ 源心寺

同所

并山

○ 榮久山大法寺

日蓮宗 小湊末

一本松下

并山 慈眼院 日利上人

△ 大黒天

三世日亮聖人の時より安宅天皇御在り信原の

筆多し

日亮 享保十二年庚午六月十五日 叙りしより

○ 大雪寺

并山

○ 淨因寺

浄土宗

西本願寺末

一本末

并基

白銀

相傳云往古此處白銀長者云者所代々富饒云々呼れり  
又云白銀云々北条今限帳云々白銀村云々

江戸阿子白銀村を九八百石程の高き云々

○氷川神社 天宮別尊山王觀理院末 鎮守山邊光院報恩寺

白銀村の總鎮守也祭礼九月十七日祭神志乃古也同

氷源和記云白銀氷川在焉郡也此市神也喜盛鳥云々

出雲國大蛇を退治云々則也云國渡川上云々

氷川上四神と崇め云々其は易力天宮と申す日本並了則也

只夫ありきりふふをけ行し福 定知 玉ふふし 本地兼何業也

○鷲森神の事

別名 白旗山 報恩寺 兼世帯

火也をもちて此の瘴を神木大獲り 祭孔を元り  
社傳云人自七代始治此院 字源花美 其神征伐凱旋し  
叶多所し 古日本武王武具村納の玉の 例 習い白旗は  
此所へ納ありて神の勸進 山を白旗山と名付しと云

○雷電宮

神鷹山報恩寺持

社傳云人を七二代白河院の時武及疫癘流行し 工民氷川津比  
奉當と奉りて 氷川神代 雷電神を奉る 也因て  
以て 雷電社と勸進此神の 勸進 突智の 念ありて大悲

經を見ても疫癘勸進の 教より叶て 依て本地をい親緒  
故に山内神鷹山と云し 此寺此記に見ゆ

○高野寺在番二個寺

白銀寺

本寺弘法大師の像丹生高野兩大神 寺の山跡寺に勸進

○梅ヶ谷

白金氷川神社 例 寺梅又床也

梅ヶ谷の地は此寺より白梅のと 遊り上人の自らの和弁

79

麻布ふり糸と云つて 名有り 其木の梅有り 花の色  
鮮明なり 又梅の實も 此の梅のよりの 歳をい付し  
故に世人見ると 梅と云つて 予去歳の秋より

又の年の記... 旅... 表... ありありな... 海...

大なるを... 根... 葉... 根... 梅

○宮下稲倉院

古此言... 坂の上... 坂の下... 坂の道... 坂の地...

○豊澤 上中下三ヶ村あり

○土筆の原 豊原の也

○今里 今早道場と云ふ

三浦坂より白銀臺へ四丁目へ出... 坂の道... 坂の所也

... 三ヶ村を指... 所松を指... 坂の南... 又北下... 柳行... 坂あり

○古軒倉の原 白銀臺町土丁の続き也

... 古来の名を呼ぶ由江戸の... あり

○永峯 古軒倉の続き也永峯山高福院あり也

○原 白銀台より十月の辺... 昔... 原... あり

此地ありきま

○犬小屋 白銀松原護册度なりしと申連を民屋下なり

のり谷春三編向

○交代の味 永峯の先

松原に所成ありきまの松高なるもの中目黒の方へ下り

所より流を漏れし雲色の 初め鏡の味なりしを成の

比改めしき

○樹木各

江戸松原よりある地獄みくふ是し斬罪坊よりなりし

地獄みくふ風物なりなる事むつり此の言なりし

或人云く此本五枚ありて樹木多き風物ありきとて記ありし

地獄みくふなる事むつり此の言なりし

○誕生八幡社 長峯一別当 真言 高松末 永峯山高福院

参り 八月十九日

○直指院跡 白銀松原の目松原阿の度なりしとて

或説く此地は改の時麓破却し岸の上大崎お増上寺なりし

の最のやうに掃り江戸の所計に遺跡なり松の麓西村角を

師の直指とて入定の時故人の妻三人の嬰児を侍りて父を

付す掃り入定しきとて香く記し是なりしなり

江戸松原に云覺文年なり水食直至坊々侍佛を建立し

院より直轄の弟子如西坊寛文六年十月廿日地入堂に於て  
く疫癘を避くべし鐘磬の儀を以て疫を驅き去るべし  
片詞を達し疫癘を避くべしと記す

寺院并寺の神社

○盤谷山光寺 真言宗 白銀台町

観音堂

○紫雲山瑞聖寺 禪宗 黄蘗 乙四月五日

弁山本庵和尚 寛文中一觀之ありし江戸仙よりす

江戸地蔵名所大念之寛永年よりす

毎年七月十五日に施餓鬼す

○大光山重秀寺 天台 妙心寺末 同所永可隣

弁山

○法正山妙玄院 天台 同末 同所猿可

五

○萬葉山淨善院正源寺 淨土宗 塔上寺末 同可三月

○五昌卷之入萬葉和尙 本寺三子孫院

江戸砂子玄当寺什家日本寺余所各同依經所の神佛の

形作をもつて千と作を像各四尺、服刻 圓行脚の湯作

備

○正蓮寺 淨土宗 聖教寺末 同可三月

可基

○恩願寺 同末 東本願寺末 同可二月

可基

○称名山西光寺 淨土宗 知恩院末 白銀 三新及除

可山

○宝運山光取寺 同宗 湧上寺末 同所

可山

○松宮山専心寺 同宗 同末 同所 報恩寺

可山 △神明社 三銘松河

○大雄山興禪寺 禪宗如心寺派末 同所

可山

当寺と上杉家菩提所也廿餘の寺もけ寺と舞の家督と代

浅草新鳥越 南藏院 舞

早道坊毛利家 屋敷より行 山王田中



○高野寺

白銀台町二月

○光祿寺

同所

○并山

○智光山立行寺

日蓮宗 京本禪寺末 同所 尊秀寺末

○并山 日通聖人 地中通應院 在五坊

○普明山西照寺

禪宗 加々徳翁寺末 白銀台町二月 地獄丸上日吉坊下

○并山

○最上山覺林寺

日蓮宗 法末 同所 地獄丸 西照寺、向

○并山

○誠龍山妙月寺

同宗 身延末 同所 土町目次

○并山

○常徳山玄照寺

同 同 同所 本村本妙寺

○并山

○金峯山本妙寺

同 同 同所 西史寺之 右口

○并山

○冬嶺山松秀寺

時宗 孫次末 白銀

中興并山 遊行五十世快存上人

当寺元武州多磨郡高井戸に在り常光寺と云遊行上人  
宿寺の爲皇曆三年申当所引く明和二年松秀寺に改む

目 黒 大崎

目黒を往古の名に北条今限帳に在り永祿元龜の頃の  
繪圖面にし見たり上中下ニヶ村ありとあり

○大鳥神社 別当天台龍泉寺末 松輝山生蓮寺大聖院

求海神社云各神日本武子大同二丁庚午鎮守上中下目黒  
村の鎮守也或人云目黒不動と日本武子云此社は誤り  
目黒にや

神社居崇云大鳥神社在和泉國大鳥郡一宮記曰日本武子  
也下部兼極云昔有白鳳飛來止是處日本武子所化也  
故在大鳥と出たりと云此は泉州大鳥の社を勘誤す

○見之了の阿弥陀 同所

※湯東山聖衆末迦山禪林寺の阿弥陀末願の所容あり  
見山融院の御宇永觀侍師行道の時御伊見了の御心永  
觀を召されしに菊岡末山禪師悟談志し之了の御心永觀を  
末を御心けしに御心永觀を召されしに本條の御心永觀を  
為國傳ししに御心永觀を召されしに御心永觀を

○鎮護神社 禪宗 別當 栖鳳菴

大鳥社の御心永觀を召されしに御心永觀を召されしに御心永觀を  
全昆羅の御心永觀を召されしに御心永觀を召されしに御心永觀を

○八幡神社 上目黒 別當 大台宗護國院 大壽福院

○三寶塚 土器塚

武家名教の目録に記す江戸砂子の三軒を記す河内と出ん

○雄子宮 大寺別當 天台末 白雄山宝塔寺

江戸砂子の慶長の比御將の時此宮へ雄飛入して社名を召  
御心永觀を召されしに御心永觀を召されしに御心永觀を

○三島神社 同所 宝塔寺持

○根神社 同所 同

○忍田稻荷社 猿町 神主 山口主馬

或人説云当社白狐玉の是南呂川稻荷の社地より出んを

百馬家子納之

○桐ヶ谷

浄宗 火葬場

江戸二里

○蛇ヶ窪

上下村 五百石程の所

二里半

○神明宮

上蛇ヶ窪

長遠寺末

○氷川神社

桐ヶ谷

別当山末

宗平寺末

○八幡社

桐ヶ谷

同 同

同

○妙達山本立寺

日蓮宗

池上末

大崎

○并山佛泉院日暹聖人

○大崎山壽昌寺

禪宗

妙心寺末

同本立寺末

并山雲居禪師

○正福山了真寺

長叫長府

切山寺末

同壽昌寺

并山大旗後微和尚

寺院

荒寺中之神社

○目黒不動

天台宗

上野末

春殿山竜泉寺

并山慈覺大師

本寺則慈覺作

江戸砂子云当山往古日本武子之谷所也神号をなく只土民の称と

〇〇〇〇〇 荒人神の由り出ると大沙本国下野國より藤山へ登りて  
 折下河所宿りて衆農民おこなひて山の上の荒人神に元日本武尊の  
 也神体を彫刻し神殿へ移し置きて之の時大沙不動の像を作り  
 内陣へ納めしめし元和三年の春〇〇〇〇の在家に火起りて是は  
 孫次郎に在る像煙の中より飛び出し沈むる上〇〇〇〇  
 貞塔云 不動を元和三年矢上の後寛弘元年に御造立之翌年  
 又御再建の由前撰集見〇〇〇〇 又寛弘十年正月十日に御再建  
 仰出させし〇〇〇〇見〇〇〇〇

△独鈷の沈 大師独鈷を以て地を〇〇〇〇のち〇〇〇〇沈み漏れ  
 依り独鈷の沈〇〇〇〇 江戸の名沈〇〇〇〇

△鷹居松 又名睡掛松 向松〇〇〇 石檀下〇〇〇

寛永〇〇〇〇〇地におひて鷹居松あり之鷹居松とて并に〇〇〇〇あり  
 実宗と作せし新念あり〇〇〇鷹居松の精〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 の松〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

札所観音	坂下	前不動 同	三佛堂 同
飛鷹神	坂下	六所明神 同	淨佛 同
勢至寺	關魔寺	同	結神 同
御所 大黒	坂上	水神 同	大行支搯限 同
聖徳太子	坂上	淡島社	遮神等 同

地藏堂 坂上 坎屋大日 經花 同

鬼子母神 是亦不動の境内に在り

再板江戸初子、さく不動、日本武尊富士の近野、みくもつ山  
徒たむりし云々、唐多、狩、遊む、則ち、出、  
凶徒、祐野、火と放ちて、尊を、城、  
以て、ひ、  
難、  
め、  
左、  
尊、

又大を飼物、此由、

当所、唐、  
粟評、川口、  
御福、

慈覺大阿、下野國都賀郡の唐父、生、  
の、大同三年、  
傳教の弟子、  
正和五年、  
又云、  
又、  
又、

○靖、  
不老山、  
本尊、

以本、  
新、  
新、

江戸ゆゑの京都靖康河、靖をよま人の家より夜毎に光明り、  
母所を求む、碓の石に薬師の像あり、身を乞つて靖康の薬師といふは  
その川にありあつた河に、あつた河に、准と名のいふと

△飯綱権現社 飯綱 又野河 境内にあり

○臥竜山能仁寺安長院 吾台 竜泉寺末 同所

本寺 涅槃像 空谷大伴 観月橋 額廻廊あり

俗語、当寺を寝釈也といふ

○松樹山茂林寺明王院 吾台 上野末 行人坂

冥榮運法寺常念佛 寺

并財天社 弘法大何作 江戸竹生島の神像のつら

子安観音 同依 長冊檀の浦よりあり

子安石 観音の共よりして信州信濃郡三坂町より他州信

△夕日山 本寺存の心を子当山紅葉の名所也

○行人坂 寛永の元湯屋山打者より行り、名行人を名

○松林山大円寺 吾台行人派 寛永正徳院末 同所

△大日寺 寛永の元行人の住せし草庵の跡あり、明和九年

年二月廿七日此寺より出火して忽大火となり、火が場を包む

是の時、此寺の大火也、此寺を改修し、城に、此寺の今、此寺を再

建の妙法あり

○目里山 不動の裏明をのし左の山の下り所

○権之助夜 行方坂の川松寺に流石の石をまわしりて

○てんごう村 石の坂下、河の村

○日出山 威徳寺 淨宗 瑞聖寺末 目里

○山 瑞聖寺上世 祖春和尚 享保年中歿之

○丹鷹山 長徳寺 同宗 妙心寺末 同所 目里

○山

○明野山 祐天寺 善久院 淨土宗 中目里

○山 祐天和尚 享保四年迄 祐海和尚歿之

△祐天和尚所託 三輪利鑑作 茶昆の中、残の目里の下り

○目里山 左の方林の○(10)

○正覺寺 日蓮宗 身延末 同所

○山

○安楽寺 山王門徒 桐谷

○山

○靈雲山 蟠竜寺 淨土宗 増上寺末 目里 紅葉存 凡次

○山

○雪源寺 同宗 長松寺末 桐谷

○山

○安養寺 天台宗 泖泉寺末 同所



并山

東光寺

山王明渡

下蛇窪

并山

長遠寺

真言宗 光惠院末

上蛇窪

并山

○金花山清岸寺

淨土宗

増上寺末

目黒

并山

○長命山徳苑寺

天台宗

山五末

大崎町

并山

境内の山と建ちあつて六十六國一末を配付し國分けること建ちて近世

行人は末末の末  
加うしは行を

字の戸の建ちて一人の池あり

○

光雲寺

助世長音寺末

上崎おと軒屋町

并山

○永華山高福院

真言宗

高野  
無量寺末

永華町

并山

○増上寺下屋敷

増上寺退院の地一本松あり是は下方まは白銀基町の地を横

町なり又は海棚と云ふものあり行の地中たは軒屋町なり

○道徳山善長寺

淨土宗

増上寺末

同所

并山

○佛性山戒法寺 同 同所

○知足山正福寺 同 同所

○選擇山本願寺 同 同所

○極善山最上寺 同 同所

○善心寺 浄土宗 三鈔及上

○碑文谷

江戸藤子云 往古忠法何と云ふ所二百の平野碑の  
文を以て埋しし所を碑文谷と云ふ

○妙光山法華寺 天台宗 上尊来 寺創十九辰 碑文谷

○日原聖人 仁王殿の所 神道也 萬葉道達

法花の道跡也 元録の比 天台宗の向ふ

江戸藤子のあり

新編江戸志卷之八目錄

一 市谷 牛山町 長延寺石 加賀屋敷

一 大久保 百人町 若松町 忍原 十日石 大木戸

一 四谷 藪ヶ橋 寺町 追分 内孫宿

一 中野 千駄ヶ谷

一 代々木

一 武藏野

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

新編江戸志 卷之八

市谷

東海親地云は古市買と書と據る。往古市買の市の一  
所即ち今の尾州庚申町と云ふこと。凡て市買と云ふ又或説は長  
延寺名と云ふ谷のゆへに市谷と云ふ

○八幡神社 別当 編笠山 東田寺 高野末 真言

求常親記に云く右大将頼朝の時武部油子大工を以て鎌倉より  
八幡より菅原の時より新田に於て材木をせよと云ふに依り此八幡寺  
より移る八幡より遷居の由は彼地等の大工師等の材木を以て社を

道之しよ... 神作... 北内果多田... 宇摩神の八幡... 比叡...

江戸城... 神作... 相州... 空源昌運...

○茶の木稲荷社 境内鳥居側向 堂山の地也

神社略記云土俗傳曰当社、自楓有が茶の木、目を突く此  
 神の産子、正月三日茶ヲ吞むと、此同俗殊...

将... 此古此茶の木... 自多神社の氏子馬を食せし...

此... 正月茶... 敷藏院

江戸城... 持也... 此...

左内坂 市名御門... 島田左内...

○おぢみ石 中根氏を補子の埋桶の石

求原社地云左内坂より加賀屋まで一丁の石村を以て真方より山口を合せ搦り石村也何事か以てより小児の笑の病を治す。地傳へて土俗を所しもの多し。

○甲良屋敷 左内坂近也棟梁甲良寺の持中寺

○鍛冶坂 本村

武藏大塚惟久と云ふ刀鍛冶傳へり。名を以てより江戸河ういす。

○小栗坂 本村昔御鷹匠の栗氏居住の地也。

○合羽坂 本村

○念佛坂 谷町を上る坂

古老云坂下、寺表きき子津土家寺ありて大坂のみと凡て或況て坂甚危く上り下り夫人念佛を唱ふる名ありて

○牛小屋 七軒店 市より四つ目へはるる也

求原社地云滝平坊位海此也。あり置るべきありて

牛小屋より馬車の中を置るた。みりせしころりか。

此界の商家は此界に所より此自界の事お存し

江戸あり云昔江城中築、町に石垣を介したる中を繋たる所と云一況、御上坂の時馬車の中を置きし所ともあり

牛小屋 馬車御入國のれは牛小屋の中を置しよ趣あり

寺々ありて所用自多分四ヶ所大久保に於て作付、柳田の所り  
市を以て美の平に於て石高鞠替地と存付、其の所り之輪  
車叶へ申付、其の所り左内、此の所り、此の所り、此の所り、  
此の所り、此の所り、此の所り、此の所り、

○長延寺谷

左内坂北、右萬昌山長延寺の所り、

江戸所あり、此地昔、池也、其の所り、安孫氏屋敷の内、少の池を  
存れり、

○浄泉寺谷

市右柳川北、南谷山法泉寺有故、名付

○萬昌院旧地

江戸所あり、市右内坂火防中、其の所り、久宝山万昌院其の所り、六者

所より、可所は引きて、後々の所り、下へ移り、

○加賀屋敷

尾州屋御屋敷北

清泰院殿御付の人居住の地也、享保八年、御冬面録の、後原野と  
ありて、馬場を申す、

○五段長屋

尾州屋西の方、御長屋を云ふ

○河田の邊

尾州寺前也、云ふ

○正覺山月桂寺

禪宗、鎌倉田貫寺末、寺在百石

紫の一本、云ふ、此の所り、市右、此の所り、也、是月桂院殿とて  
喜連川頼純御嫡子の菩提所也、此所、元平、月桂院禪院  
八十八、此の所り、此の所り、此の所り、此の所り、此の所り、

華嚴禪河の源流を記す

塔以 北竹菴 臥菴菴

○稻荷山東光院 真言宗 加賀屋鋪下 寺石百石

江戸河子去当寺元真言宗也退轉し一尊菴と云ふ

元稱此黃廢宗凌雲和尚中興大之

○無量山火信院珠寶寺 淨土 本村四百

○山覺蓮社大譽上人洞中和尚寛文十三年六月廿香比

并伏天弘法大以作 復法神也

○七宝山藥王寺 饅頭寺竹の寺下

火燭地死 但之寺所

○如説山修り寺 日蓮宗 平賀末 饅頭谷

○日城上人

○瑞光山道林寺 禪宗 妙心寺末 日所

○并山 秀外和尚

○白鳥山善慶寺 一向宗 善寺教寺末 日所

○并基 善慶坊

○寺中 説法寺

○葛昌山長延寺 禪宗 曹洞宗 長手寺末 田丁

○并山 煥英長應大和尚

○清光山林泉院安養寺 淨土 知恩末 石所



冥心蓮茂社 澤卷之入員公和尚 天正三年甲戌起立

旧地之市名在官土見故也 今尾州御領御攝由明曆三年三世

秀足之入の付キの地、福

福所社 当寺鎮守

万治元年正月朔日おん夜老るのまゝ

福あらしのまゝ... 子とありそめ君りたりく成そみとあり

讀てお州のまゝを先秀登自に竹木を折り社をたらしし蓮茂也

八幡寺像 西の山に厄子伊弉子經久傳内鎮守

同八幡寺地 阿部院定転作

治各元年勅命... 依り造立す... 月輪殿に象宝公、ありおわて

厄子經久の謫守の地と云地伝にあり

八幡縁取 本地佛縁取 厄子氏を誦おわたり 江戸御寺地

○覽五山淨栄寺 淨真宗 西寺

開基 中興可是 善安法師

○惠命山林松院山満寺 真言

開山 重春法師

○本清山長嚴寺 東

開山 春清法師

○久栄山蓮秀寺 日蓮宗 玉沢末

開山 日表上人

○蓮光山妙典寺

日蓮宗 妙蓮寺末

○可山 日觀寺

○護国山東月寺

淨土 安養寺末

○可山

○稻花山東月寺

高野末

○可山 寶基太田資長入道道灌

○口福山經音寺

淨土宗 西迎寺末 市谷谷町

○可山

○七星山光徳院

真言 護国寺末 柳丁

○可山

○惠命山円満寺

同 護持院末 袋寺丁

○覺中山淨泉寺

一向宗 西 南寺町

○長巖寺

東 七

○久榮山蓮秀寺

玉沢末 七

○蓮花山妙典寺

淨土宗 妙蓮寺末 七

○泰國山長昌寺

七

○可山 榮岩和尚

○永昌山宗泰院

禪宗 曹洞 万松院末 左内丁

○可山 格峰泰逸大和尚

○富聚山長龍寺

同 小肌 五松寺末 左内丁

○山玄室字飯大和尚

○鳳仙山長春寺

○山心巖應大和尚

○龍谷山洞寺

○山用教應大和尚

○天長山永昌寺

○山

○蓮紹山惠光寺

○山

○大栗山經王寺

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

三 乞長壽寺末 同所

○日照山法光寺

○山

日蓮宗 越右本願寺末 寺村下

寬永三年秋五在坂一木村取建美應寺年主已四各廟寺所其石  
当时(移)

○涼月寺

日蓮宗 五沢末 原所

寺中榮昌院 觀理院

同 平賀末

大久保

是を市ヶ谷の内也大久保と云地名北条家の領之なり

○大澤天神社 別名 聖護院末 梅松山五文字大聖院

江戸城の北野回社也神体、東帯の神形と云一名東の天

神と云又西向天神也、熱室、人皇八十五代、後醍醐院、享貞、辛

酉、又、勸修也、大信、神、玄、信、中、興、元、大、久、保、熱、守、祭、礼、元、月、廿、四

古老云、当社を、東、天神、と、稱、す、夏、室、元、元、行、れ、御、座、名、神

者、時、當、社、殊、の、破、壞、一、行、氏、上、覽、行、く、別、當、を

召、見、金、の、東、を、賜、り、是、を、以、し、當、社、を、再、再、元、く、の

上、命、り、是、を、一、尊、と、神、と、稱、し、存、社、壇、造、立、せ、り、

此東の故の寺当社、世に西向と云ふ、  
筑紫太宰府の東方に社壇を築く、  
社名

○大窪稻荷社 七面東の町屋 別当 二尊度

宗助天相殿

神社略記云、將、当社七面東の屋、  
相殿也、併記、所謂宗助天、附合也、神通、宇賀魂神、  
先代、宗端詳也、神系圖、宇賀魂神相、  
祭之云々

○七面社 別当 池上末 春時山法善寺 日蓮宗

昇是日朗上人寛文三年駿河岡田三沢寺、此地、

近宮宮身近心の七面社、勸請、  
達之云々、社名、寺中、寂照所

○朝日稻荷社 土左保四下所住の上

当社、太田を圍つて、道邊、  
社名、

○油掛松 土左保七面近所、

寛永の此地、  
松也、  
叶、  
和五子年、  
上地、

不説之し信之

○神明社 上久保赤坂町 古美別宮 諏訪村 玄圃寺

○西丁町 山形横町 通河 入り

○鍋つり所 清光寺 御中 あり 通入 あり

○白蓮山専福寺 高宗東 七面通所

○甲是宗泉 二也 祐全 三也 源澄

○佛 願心 専念寺 浄土宗 知恩院末 上久保

○山 寂谷上人

○法恩寺 日蓮宗 京妙満寺末 同

甲山

是と大久保と抱中 あり 四つに寺地あり

○大久保山 永福寺 禪宗 牛込万昌院末

○山 極屋和尚

○玉峯山 長光寺 禪曹洞 牛込宗光寺末 上久保百人町

○山 得列可大和尚 二也 中興 海山羽利大和尚

○山 所田照寺 從明神社 丁方入末の所に寺

○金龍寺 禪宗 中野成教寺末

○善龍寺 三 宗光寺末

○福應山 蓮光寺 日蓮宗 信州川中島 幸性寺末 牛込若松町

深山唐性院日足上人 土久心、并墓也

○東護心願正寺

一向宗

寺之 向所

并墓 名養坊了善 高坂彈正、あり寺付

堀京ト傳。故宅の跡大久保砂利場が所ト傳ふ所ト云

大久保の田面の蛙心ト云、小ねのト云ふの事なき事ト云

此よりト云所の蛙心ト云ト傳死ト云 諏訪社の二碑ト

云ト云所の石存スト云 信シガタシ

千駄ヶ谷

○高耀山寂光寺

上野末

深山

日宗 贈聖人  
台宗 開基 大僧都 田雄

○長應山立法寺

誕生寺末

○開山 日了聖人

○法壽山仙壽院

甲州大野  
本名寺末

○開山 日遠聖人

○高雲山隨田寺

相州宝泉寺末

○開山 天室宗祝



數ヶ橋也

○放光山竜潭寺

黄蘗末

并山

○宝嚴山龍谷寺

上代源寺末

并山

○長徳山妙行寺

日蓮宗

本成寺末

并山 智泉院日善

○銀樹山原春院林光寺

西末

并基

皆通御坊

○妙性山正覺寺

身延末

并山 正覺院日如

○栄洲山香蓮寺

灵岸寺末

并山 静蓮社寂庵久

○台岩山宗源寺

智恩院末

并山

○顯明山本迹寺

小湊末

并山 日清聖人

○久翁山教昌寺

上代花院末

并山

○高月の長善寺

芝増上寺末

○山浄蓮社及岩瑞翁上人

鉄佛了

○龍泰の茂昌寺

上代河田  
沈花院末

○山吟室龍大和尚禪師

○壽念山尋光院正忍寺

本願寺末

○再基 祐念了順法師

○宝嚴の龍石寺

○此外祝大和尚禪師 東國高僧傳

四谷

四谷の谷行へぬ四ツ谷の山が不甘心千日谷而已四谷の山は  
若谷谷大久保也多駒ヶ谷 喜山と云く四ツ谷の山は大上谷  
と申す也四谷より九一里半と隔る 四谷名之動は市川  
往古き武蔵野は流るる糖蜜と云ふもあはれと云ふも  
家四ツ谷梅尾木尾 今保久元と云ふ屋敷市尾の四ツ谷より甲州往  
来の旅人のやすき所也其の所当地りし梨昌寺は江戸伊馬町  
堀町の代地或頼町也の寺社の代地替地と作付 雖も五ノ地  
ちと狭しちとぬがし四ツ家の名も人々をせり四谷と云ふはぬまき  
右四家の内梅尾保久元と云ふ保久と云ふ地と云ふ其比の高札所といふは

ありてありし一助、物成、并、堂所、を、危、か、と、随、分、お、け、り、と、  
往、昔、の、思、ひ、は、各、一、層、凡、北、条、家、旧、記、に、四、石、見、下、午、時、の、地、名、  
見、の、江、戸、砂、中、四、石、と、云、い、午、日、若、菜、所、各、午、時、上、各、の、四、石、  
故、と、云、非、也、四、石、雜、侯、と、云、寛、政、頃、迄、外、曲、輪、の、所、に、空、地、多、し、就、  
中、四、石、と、云、西、の、方、に、五、り、と、シ、林、傳、生、成、り、野、新、言、屋、  
多、く、集、り、と、人、の、満、ち、り、の、内、人、家、四、石、と、云、ち、り、と、云、所、を、  
四、石、と、云、け、り、と、云、故、才、家、つ、と、云、り、隨、て、自、其、の、四、石、と、云、来、  
り、と、云、と、云、

○四ッ谷 御門 振可十町目、

江戸砂中、云、の、外、を、四、石、と、云、上、下、目、十、二、目、を、云、け、り、は、傳、し、

ある、時代、地、を、ゆ、つ、の、か、ま、と、り、と、云、い、三、丁、分、の、四、石、の、内、を、ゆ、り、

四、石、親、談、云、麴、所、十、三、丁、を、ゆ、り、が、四、石、ゆ、つ、出、来、の、布、つ、と、云、い、

ち、三、丁、ゆ、つ、の、外、ゆ、り、と、云、四、石、の、故、り、と、云、行、を、麴、所、十、三、丁、目、と、

云、は、前、の、山、と、云、西、の、方、に、四、石、と、云、是、甲、の、一、の、道、筋、を、

○紀伊國坂

江戸砂中、云、紀伊國所、餘、の、外、の、方、の、故、と、云、り、は、記、し、り、と、云、  
下、の、御、所、の、故、と、云、い、

○間の馬場

○藪 橋 上二ツ水也

再、校、江、戸、砂、中、に、也、武、家、紀、録、に、寛、政、手、中、に、自、河、村、に、於、て、屋、を、

辨れしは佐目河村、橋ゆへにうく名はしとて、此河一つあり  
 江戸のちの好ト古溝、うろく者、信じて此河は較うらんなり  
 大い寺、牛止り元寺、名馬の馳馬なり、任職の傳馬馬  
 ころし曼世塚一面に、いふ所、得りてかの馬、此河上より、取て  
 死し、まゝ馳馬橋を、しり、を、此の、まゝ、か、橋、を、守、り、行、元  
 寺、旧、記、に、行、曼、世、塚、に、御、家、や、さ、さ、り、行、元、寺、代、り、の  
 碑、に、り、と、云、又、説、む、う、り、に、は、ま、大、河、に、を、と、ら、川、に、つ、い、さ  
 ち、は、所、へ、大、き、敷、あ、り、し、と、信、用、し、か、に、い、説、か、り、る、ん、ゆ  
 〇傳馬町 四谷大木戸也

天草陣の、傳馬、傳馬、傳馬、勤、り、ゆ、復、た、ま、り、と、大、傳、馬、町、の、馬、に

勘解由、い、は、何、の、い、ふ、事、故、有、傳、馬、町、に、昔、使、主、に、シ、終、り、し、り、付  
 馬、町、と、い、ふ、事、再、板、江、に、あ、り、云

〇四谷南寺町 傳馬町の西

〇北寺町 大通りの北

〇伊賀町 南と北にあり

〇木橋町

伊賀町、松平、源、持、守、院、中、に、さ、前、身、に、さ、所、持、有、た、ま、り、ア、ら  
 キヨコ町と云

〇牛頭天王神社 四谷 真言中野宝仙寺末  
 別当 稻荷山宝藏院  
 祭神 山城国祇園社に同じ 神主 浦喜山 主殿

神社略記云公事根源 後凡上祀神代五坊抄云素戔嗚尊集地  
もむかししり以て牛頭天王と云武塔天神と云当社三坐也と  
云本縁未考毎年六月十八日の時より同廿日の午時迄神輿四谷  
石切所の御屋へ遷望詣り山列御園而詠出ぬ一若祀は六月  
十八日ニ隔年也と云し

稻荷社境内より此社より神符形出入是疑所より江戸城ありし

○掃溜小路 南伊賀町十軒店より

○舟坂横町 伊賀町横町

○戒行寺谷

紫の一本、傳馬町より下り戒行寺と云寺谷を不

○忍原横町

同慶也 天正社の西組中より也

南向屋語云古云天正八年而國の時駿府より我城山東京而  
番より勤王後慶長五年より武州忍原御番に勤王を寛永十  
年忍原を松平伊豆守より下り御当地へ来りて所を居せしむ  
忍原と字所の所を忍原と号しけり

流江戸城あり云王東中ノ國の事 武州忍原所書体也云忍原  
守成而城代を来りて州より百人を以て守りぬ忍原  
阿部豊州屋へ云忍百人の忍江戸へ居る事也忍原を忍原  
是を忍原と云ふ也

四谷親流云右馬廐横町より東より廣く荒れりし

賈永は先子孤泣左の跡を所を申す所名付し近江の御子  
よ才十一孫同心五人おれしは信守をよめ地味一丁坪余  
リがなし而用地に軒を筑て二丁七坪也

○左明町

○右京町

再枚四谷寺通横町寛永此所中表のこけ所を御殿を  
あり名也

○大番町

明勝大火の地一番町より本おこたる所地をよめ大番町の  
宅地をよめより大番町といふ也

○六馬殿横町

四谷難波大木戸より東に三丁程行たの方をこは六馬といふ人住む死去  
の地惣乳十郎をよめ家督相続を父右馬に譲りて武田の人をよめ  
十郎をよめ父の似れ果和し仁心人なり信守の人佛中  
可なりと評せざる可なり短平といふ死志二丁甲の地を譲り  
が早世信守其家地をよめ右馬殿横町といふ

○夫婦坂

此一丁の地

紫の本を四谷信馬町より母を譲りてむす一丁也  
身有夫婦の名に少人あり。あま作しにたは名所  
稲倉好む坂より難降稲倉の田地也此地は赤坂といふ

移りいなり坂に鉄炮塔あり

○千日谷 神系西南に六

おろろろの二本云千日寺と不寺あり人多く是に永固山一行院  
と云寺あり

○信濃原 今信濃町と云千日寺の所永井信濃寺此に

有故名付

○仲殿町 紀伊中野の西に服部仲殿中

千里信仲殿町に移り元来南伊賀町と云也

○大木戸 大木戸と書り高井土中野の河邊也

永源記に云往古の宮あり天この大木戸と云り奥州伊達大木戸

武州の大木戸と云往古の宮ありと云

大木戸を宮と云り此也是に大木寺の山号と云り宮と云り

より遠より大木寺の元宮あり近邊にあり此は四谷に移り由り

寺の山を宮と云り

○汐干の里 潮踏の里と云大木戸の先あり

仲殿町より中野川西北の山に坂あり潮踏の里と云里信仲の汐干坂

と云則坂中に潮踏の里あり大木戸の先汐干潮踏地名

を錯置と云り四谷殿の村あり此に流る又西念寺あり

あり可考汐干里と云り此の語あり

○糞石横町

大本の先より少く横所と云保。二のゆへ可也亦五路。身  
町のそをさむり大本の通る大なるか。いんをさむり横  
町。あけ

○本所新編新伝しき

或人説云本所大和守成中しき十九万坪ありて江府より大  
や。さし九万坪あり地とありて大少なるをさむりや  
大名の地多しふも多し

○麻田 三好勝一ゆ所中しき裏

土師つ所より四段の大麻をさむりて毎年作らむ汁を扱ひ  
所。麻田と云土師つ所。在武下向の時。す地。さす。あふ

○御言持おし松 内所新編本所了や。さ。角なり

江戸のそをさむりて御言持はは時。さ。あ。れ。の。さ。す。我。所。し。の。也。不

○千駄ヶ谷

紫一平。まき。太田通流。帆見の時。式。谷。西。の。輪。子。野。も。さ。す。こ  
多駄ヶ谷と名付し

○花園 稲石 安保院末三光院 内所新編北より

○八幡神社 千駄ヶ谷 別当 相法法衣寺末 高野山 瑞田寺 西内

幸地阿比陀一丁目 恵心僧都作 神代 而朱。下。八石。い。斗。  
才奉り。沼谷をさむり字道の傍と云 江戸の。あ。ふ。り。さ。す。か。さ。す  
美掛松つ所。大本の松あり。是れ。以。て。麻。田。に。是。所。は。麻。田。の



筑前縣のりりしと

○吾妻堤 同所より海邊の堤より筑前縣のりりしと

江戸砂子

○元端清和藏 同所 今つ振田系西より

○太神宮 同所 神之川川新宮

江戸砂子云云為此に中つ類は有し神ありそおわつりし

少所は族より元末に相不の根よりおわつりしと

佐の神樂のやい、太神宮の御まゝにありしつての傍の社地、祠

をまゝにありしと又さ所よりつと

○甲斐町 元々トヤの花の南に中一りの所

○旗ヶ谷 多結をみと成るおのりりしと

○氷川神社 同所

○八幡神社 同所

○稲荷社 同所

○新宿 江戸より二里

○追分 新宿の先高井と中野一の追分也

○策の井 追分の先

策の二平云云四谷伊勢町に先松平振作が所下中一り内は元和に所鷹野に命を名にありしと中野内なるをさおとら上らまは鷹野に策の汚れたるを洗せしと一故策の井と

名分——とく

○右田川 右田橋 新筋の先

紫の岸云々右田——四ツ角新町の先也といふ——  
町——

○大上谷 狼谷

紫の岸云々世傳の先 其町——  
紫の岸云々世傳の先 其町——  
紫の岸云々世傳の先 其町——

○牛窪 狼谷の内

○笹塚 不動 八ツカヤ 真言光明山莊嚴寺 道園寺末

是ハ遊みの陣お也

○鑑明神社 柏木村 四照寺持

是ハ大久保公也 鑑明神柏木村を 四照寺の 境地の隣り  
神座有り 傳あり 美我見せ 傳明神 奉由云々 其傳の 甲なる  
誰人の持来り 埋しけ 往古 境塚と云い 也 或ハ此 疥癩病  
ハ此塚に 疥癩の人 即病を愈し 故に 里人 敬する 也 是を  
鬼の神と 稱し 鳥乃 建之 所と 稱し 甲の神と 誰人の 書け  
其塚 当田 照寺 別と 云ふ 甲の 神と 申す 也 申す 也 申す 也  
其塚 鑑の 文字を 書し 也 甲の 神と 稱し 此 田 照寺 也 是を  
社傳 コタヘ 又  
○成子宿 新筋の先 其塚の 名物 成子 瓜と 不

里に云く一里所の酒を其つ<sup>鳥子</sup>成母をけし家内  
も縁をいかりを其つりて造るるを其お酒を米を其  
お酒をいかりを其つりて造るるを其お酒を米を其  
お酒をいかりを其つりて造るるを其お酒を米を其  
お酒をいかりを其つりて造るるを其お酒を米を其

○天神社

同所 山照寺持

○おのき村

名今の村は是より向の方へ

○渡橋

水車より成る橋の中舟の舟向

面影村

又染りて一染りて村と云

紫の二層を寛永の江戸村と改むる一釣舟

江戸村

江戸村の子をむく一磨部正親寺美所中の村丸、朝日寺

昌運のまじりて一少盃米十盃黄令十兩、銀十三兩

貫朝のりて夕日やうやく膳の木の下にありて是を其村と云

男の負せしや村を振りて下男村、盗むるややんとして

殺しりて其下男の殺しりて人足にきりて其を足やん

姿不見の村と云く一里人の物語の

○角筈村

十二所総起の神宮名詞云僧祇變長、厄祇、廿變長、優婆塞  
祇角筈經祇染紙塔祇阿良、皮云

中野長者出家して西蓮と云ふ元神人を以て優婆塞の好神勢  
あつて、好神家の法を以て自稱して角等と云ふ好つて地名  
と云ふなり

○高井土 八王寺ありて江戶より三里也

○半礼居野 高井土の先 真桑仙の名物なり

渡橋より五丁南の方ニ此野権現 角等おと云ひ十二所なる

山水宛岸の地境ニ堅四丁ニ可計の地あり池の長一宮あり

古一役行者の宮ありありは所を角等と云ふなり今一役の月之

の宮を并天と云ふなり宮あり池あり萩の所と云ひ

此野と云ふ一池あり庵室あり中野禪宗 成礼端寺の持寺

○旗ヶ谷不動尊 十二所より十町計り也

○十貫坂

角等おと和田おとの百の坂あり中野長者が坂のりて月の乃不  
限り永銘十貫文を以て買得たりと云ふなり

○十二處権現 南界村社傳へ云所謂十二處権現本云(詔誠

殿と云)伊弉丹子中御前人皇玉社 速玉雄命 西御前 又結の宮と云

事解短命 養一王子官ハ 聖宮 瓊杵尊 瓊杵尊 天照皇大神

相殿國守 皇々上の四宮と名付 禪所宮 忍穂耳尊 聖宮 瓊杵子

見宮 房火々出見命 子守宮 鶴草葺不右子 皇々中の四社と名付

二乃宮 火神 軒邊突智命 十乃宮 火神 神垣心姫神 勸誘

十五所宮、水、神、周象、七命、花行宮、五穀、椎重、屋神、是を下

の四社、名付く、徳、是、是、野神、と云

茲、應永の比、銘、未、九、印、身、と、名、者、流、派、と、武、比、宇、計、と、事、

共、と、止、す、と、事、何、家、貧、と、と、若、一、王、の、生、土、神、を、以、て

実、の、田、の、丘、陵、を、名、代、と、し、小、擬、一、少、初、を、創、建、一、日、二、年、と、

信、仰、く、後、家、富、榮、の、元、当、社、を、再、建、十二處神を考く勸修

奉、是應永十年、嫌、也、遂、中、野、長、若、と、稱、は、是、当、社、を、崇、敬

也、と、以、て、事、あ、つ、つ、と、銘、未、氏、の、創、小、以、來、三、百、餘、年

世、移、り、物、換、り、奉、初、の、寺、主、移、村、也、と、ま、ま、主、の、日、を、行、

故、寺、宮、と、考、く、分、社、一、社、勢、を、い、つ、と、民、の、心、を、

古、の、ま、田、神、塚、今、僅、十、ヶ、二、石、一、各、面、奥、常、と、稱、く、村、民、昔、奉、

祠、を、旧、寺、の、徳、と、し、と、志、有、り、遂、里、長、兼、成、元、寺、と、相、論、と、云、く、

誤、成、り、村、民、共、公、廳、と、許、免、許、を、蒙、り、享、保、甲、申、年、成、元、寺、の、

奉、祠、宮、と、名、り、ぬ、け、と、稱、現、在、土、川、加、高、寺、祀、前、棘、を、掃、ひ、ま、道、

を、ひ、ら、き、神、供、最、重、い、ま、祀、懈、り、り、故、神、光、や、り、

國、中、の、心、を、感、應、を、道、と、す、ゆ、と、云、

寺院

○雲龍山文殊院

真言宗 知足院末 南寺町武行寺向

○開法印權大僧都訪信上人 寛永十三年丙子六月十日辰

○日照山宗福寺

禪 勝光寺末 同所 文殊院裏

○開山藏室積大和尚

○鎮王山龍泉寺

禪 全勝寺末 同所 文殊院裏

○開山晋菴迪大和尚

○松雲山西應寺

當寺山子神農羅布由 一向山 東寺野寺末 同所 竜昌寺末

○開基周桂 慶長十二年起之

○痛竜山永心寺

禪 竜昌寺末 同所 西應寺末

○開山明叟春洞和尚

○雲龍山松巖寺

同 妙心寺末 同所 永心寺末

○開山桂門和尚

○正妙山法恩寺

日蓮宗 妙滿寺末 同所 松巖寺末

○開山日什上人

○平等山本性寺

同 本寺末 同所 法恩寺末

○開山日詠上人

○金剛山顯性寺

真言 宝仙寺末 同所 本性寺末

○開山賢秀法師 康應二年己未正月廿七日化

○妙性山正覺寺

日蓮宗 身延末 同所 顯性寺末

開山蓮光院日耀聖人

○深谷山長安寺 淨土 知恩院末 同所 正覺寺、並

開山心蓮社深谷上人

○妙典山戒行寺 日蓮宗身延末 同所 上珠院向

開山日養上人 寺中田主院本壽院覺妙院海鏡院

当寺寛永の比まで、戒行寺といふ趣可一自は所傳、以て常凱目

執行の小菴ありしが安布其力を合せし終、一寺とありと云ふと

再校江戸所あり云々

○法輪山勝興寺 禪 熊谷東行院末 同所 戒行寺の五

開山雪庭春積大和尚 寺中清岩院 谷田院

○専称山西念寺 淨土 西福寺末 谷町同所 地中長平院 信壽院

開山服部半藏 後了 長州 出家の故 西念寺 初建所 目坂ニ菴

居之後 西念寺と云ふ今四ツ谷谷町ニ移す 右寺代所持の鏡

一と云ふなり

○錦敬山海禪寺真成院 真言 宝仙寺末 同所

開山 清心法印

鹽路觀世音

略縁觀云人皇太子聖代村上天皇護身の尊像之故是村上肥後守

頼清公常、以觀音を崇信、其故堂宇を造り字置、奉り

其故太坂所傳の御村上賢吉之當寺也三世信心、之を以て當寺と云ふ

一寺をくまの奉り古へ海上出現。其佛は堤防敵をよけ了  
 きたし潮満あり付に岩を潤いをもし。汐干くまきつ木のり。日  
 星を伺し時刻違つたり。世々かき垣干觀をいし。奉り人住手  
 敷取の田原、名を境失。はあてり守せせり。屋代入山吾妻  
 飯田平地の野伏。平屋を里の野。岡田氏等守奉りこと。江  
 江戸砂子。よは本寺の村と多摩の守佛あり。義情未流村上を知又  
 道道示さる。奥州未坂のり。大坂は陣。いまは江戸の守  
 当寺青山清心法下。祈の師。いし。浪人のうち当寺に富り  
 江江戸の所家。出勤れり。此は本寺の。当寺に就むこと  
 将りし寺侍。江戸砂子の説喜に違つたり。寺侍をその侍。

江戸より上人のついでに是を改む

○放向山蓮泉院 同 根生院末 同所

開山法印 鏡眼

○醫王山安楽寺 天台 上野末 同所 東福院

開山

○十股山愛深院 真言 護持院末 同所

開山上誅上人

○宝勝山円通寺 小湊末 法藏寺向

開山

○稻荷山妙行寺 日蓮宗 身延末 天王町 宝徳院



開山日純上人

○高見山日宗寺

日蓮宗

山湊末

日所

寺  
東福院裏

開山了山院日龍上人

元和此迄翻可清水谷有弘治山來蓮寺と云々後此所移るる也

△夜明鬼子母神 日法上人依

○阿諱山東福院

真言

同所

南寺

各平寺向

開山

○五劫山并大院法花寺

淨土 増上寺末

同所 日宗寺

開山來蓮社大養永運和尙天正十九年開基松平兵庫氏院の屋

敷内川村一寺

○瑞溪山 祥山寺

禪 種徳寺末

同所法花寺上

開山 啓英 趙世元 禪師

○山通寺

開山

○姓峯山 全勝寺

禪

寺  
幸泉寺末

同所

松平中將大輔殿  
向テレンマ所

開山 青飯 原和尙

○涼雲山 西迎寺

淨土

増上寺末

同所

全勝寺隣  
テレンマ所

開山 儀蓮社 仁峯上人 西迎和尙

当寺往古紅雲山より故紅雲山云々太田通清の家臣伏見勘七

即云人开星のよー寛永十二年今四谷北寺町に移す。紅葉山今  
御堂所より加原を山と出雲を改む世に寺、竹書伊良、  
紅葉山と書て寺、山寺、伊良、或人、伊、乃、寺也。

○宝林山養國寺 禪 龍昌寺末 同所 西廻寺隣

○春公山全長寺 禪 全勝寺末 同所 長國寺

○正覺山地福院 天台 教覺院末 同所 全長寺 拙向

○慶存法印 淨土 知恩院末 同所 地福院隣

○增光山淨運寺 淨土 知恩院末 同所 地福院隣

○信運社名譽終故上人龍池大和尚

四谷淨運寺の山をり兼今大納言伊手卿  
以て寺しりて寺をり兼今大納言伊手卿

○妙元山延壽院 天台 上野末 同所 淨運寺隣

○賢榮法印 一向宗 東 同所 延壽院隣

○青菴山法雲寺 天台 同所 延壽院隣

○四谷山正應寺 天台 同所 法雲寺隣

○同通山安禪寺 天台 自證院末 同所 正應寺隣 塩丁横

○同通山安禪寺 天台 自證院末 同所 正應寺隣 塩丁横



井山雪灰積大和尚 地藏寺 觀音寺 稻荷社

○鎮護山 四龍寺 自證院 天台野末 寺伝三百五十九市尺 軒村

井山日須上人 寺中 四葉院 妙光院 真珠院

諸家系傳記云 寛永十七年 達之 井山日通上人 寺伝三百五十九市尺 名勝志云 神之本理山 自証寺 号 日通上人 万石 此故也 天台宗 改之云

尾州 湯島 院所 寺伝 二万五千石 所寺附 江ノ河子 物

△蜘蛛の井 境内ニあり

紫の一本 山際 有り 穴より 涌水 毒あり 飲者 死す 此 土蜘蛛の 巢 あり 液 色 濁 三田 河 井 土蜘蛛 云々

井山の 寺 あり 江ノ河子 穴の 山 社の 處 山 際 穴 あり

是を 蛇の 井 名 付 是 古 跡 あり 蛇の 池 あり

予 一 寺 あり 入り 寺 あり 本 寺 以 節 本 寺 あり 昔 尾州 所 傳 也

當 寺 統 統 以 本 寺 あり 西 界 附 あり 凡 寺 境 内 土 地 甚 大 凡 寺 あり

○源慶寺 一向宗 東 同所

井山

○万蓮山 東長寺 禪 晴島寺 末 同所

○雪山庭春積和尚

○法真心理性寺

日蓮宗

越前寺末

内務新宿

○日克上人万治三年起之 可長久也三印右二つ成

○霞美山大宗寺

浄土宗 比叡寺末

同所

○念答故心覺玄和尚 当寺元段之天二河故山号之

○明了山正受寺 同宗 同末

○明了山正受寺

同宗 同末

同所

大寺寺  
辰部寺

○十却山成覺寺

同宗 同末

同所 正受寺

○松皆山西方寺

○護奉山天龍寺

禪

最勝寺中大照院末  
長福康昌寺末

追分

○春庭屋和尚

トチカネアリ

○松皆山西方寺

浄土

新知恩寺末  
一万海院末

同所

○福聚山常山寺

日蓮宗

上野宮田

長年寺末

同所成々

○観谷山聖輪寺

真言

和乃長石末

于野々各

知りてや

○行基菩薩院

△観世音

本尊如法輪

行基作

江戸初子云 是を眼玉の観音と云 其上賦来し奉る玉眼音

毛所を去り玉眼を持たす已に玉眼

死に而当地も千餘歳を經つて其場、漢草觀音と當寺ありて  
○高耀山寂光寺 天台 上野末 圓明 始は代のウツリ  
開山日守贈聖人 天台宗 不基 大僧都円雄  
當寺元身塚、通ち清浄の樂の所此地、後、始、日蓮宗ありて  
元祿に天台宗、かゝる也

遊女の松 境めぐり

江戸妙子之始、あの松と昔、其海邊、もと原也、松ありて  
又、たゞ、いふ、いふ、を、寛永に、所、所、所、を、いふ、いふ、いふ、いふ、  
は、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、  
と、中、この、は、廣、を、祀、せ、と、いふ、を、自、て、改、め、遊、女、の、松、と、いふ、  
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

の銘命、其別、湯、と、いふ、松、あり、所、大、切、なり、  
○長廣山立法寺 日蓮宗 誕生寺末 圓明 始は代のウツリ

開山日了聖人

○高徳寺 青山 松平が、いふ、寺

開山

○順正寺 一向宗 子馬ヶ石

開基

○龍泰山 出度昌寺 禪 上野沼田龍花院末 千日石 二行院

開山 吟室龍大和尚

○長月山長善寺 塗坊上寺末 同所花女名

五山洋蓮社及答瑞翁上人

○法雲山仙壽院 同 甲州大野本遠寺末

五山日蓮上人

○西福寺 同所

可心

○銀樹山涼泰院杖光寺 西末 廿六ハシ

可基誓道

○白岩山崇源寺 智恩院末 同所香蓮寺

可山

○梅童山陽光寺 禪上赤蓮院末 敦ヶ村

可山 鉄心和尚

寛文ノ人ナリ鉄心菴ノ末寛文ハ申年ナリ陽光寺ニ改む

證ヶ洞

○宝巖山籠谷寺 禪上可代好寺末 同所

可山 延外祝大和尚

○放光山奇潭寺 同 黄麋末 同所

可山

○長岡山栄林寺

可山 法音院日実大徳

○大覺山四應寺

同

同法善寺並

○長岡山一行院

中興別尊和尚 覺文の年記之

○長岡山一行院 千日寺 淨土寺末

同千日寺

○栄洲山香蓮寺

○栄洲山香蓮寺 同 灵岸寺末

同所

○長明山法善寺

○長明山法善寺 日蓮宗 十湊末

同所 陽光寺並

○顯妙山本迹寺

○顯妙山本迹寺 同

同所 香蓮寺

○妙性山正覺寺

○妙性山正覺寺 同

同

身延末

同所 香蓮寺前

○専念山寺光院

○専念山寺光院 一向宗

一向宗

西本願寺末

同所

○醫王山田照寺

○醫王山田照寺 真言

真言

上野寺末

柏木村

大久保身所 先向之谷也

鑑明神

鑑明神、記す。前、田照寺、アハルキコトナラシ

并助天社

弘法大町派 並師事

右務一樹

並師事ナリ

此の年或、江戸麻よ江戸麻子ホウズケノミヨクニシテ



田に或田を削つゝる浪人まふまふもさもふも  
此木 農老木と本木の  
枝植ゝりあり右植つちふきてあふゝる左枝をうぐ  
継本の上午な  
目一枝葉やとのくてもむらゝの包まとなせり  
右削つゞ継本の梅  
ちまひいつるまゝくち削つ梅をうぐゝる  
相木をこつまのトリ  
け枝  
け梅もまゝに説也源氏物語を伴つ物語をまゝ  
うぐゝる  
うぐゝる

○長徳山妙行寺

日蓮宗 本成寺末

本成寺末

○開山 智虎院日善上人

瑞山寺

寺興と云

中野

光惠世國領り云水無月廿八日武田園中野  
るる信... 妙なり朝露を分て露りき...  
も岩雲のし城き... 又中野りの里へ移り侍り  
露きふ道と神もも清き... 中野り

氷川池云武田中野り  
上野中野末野り

○神明社

別当 慈照寺

○氷川社

真言 宝仙寺持

○桃林

京保此釣命ト云植ヤヤララ春凡桃本ノ可ク時ハ數千株ノ  
枕花苞を食ふを以て甚ク佳果ナリ此桃林ノ中ニハ萬々山向  
一二所腰城ノ境ニ一ツニ御馳走山ト云是ナリ枕林を食ふ所ナリ  
凡果紅トシ方ナリ京保此菓ナセラ山也其傍ニ大木ノ松  
一株アリ是レ台命ノ依リ移リ植ラ松也

○石神橋 枕林ノ下ニ河ノ石神ノ子所也

○佐五右エフ橋 石神橋ノ次 小川ニヨリテ也

○豊橋 淀橋を流るる水ヲカウ少儀ニヨリテ也  
此ノ淀橋ノ次ニ出テ一ノコトニ再出也

○明王山 聖無動院宝仙寺 真言古刹寺竹世三石ニ年余  
寺高 普つ院

并是ノ寺ノ年歴レ一ノコトニ往方々大寺アリ一ケ大木ノ下ニ數段  
ノ戦傷ノ破壊ヲ存スル一江戸所アリ也

○中野塔

元成教寺ノ塔ナリ今ニ于跡成教寺ノあり塔ノ一ニ不其  
塔中ニ毎主ナリ所ノ聖位太子彫刻ノ疑四一解今成教寺石  
殿ノ本所也

○福王山 慈眼寺 宝泉寺末

開山

○西光寺

○新昌寺

淨宗金訖寺末

開山

○多宝山成願寺

禪曹洞 相命香や寺末 中野本御坊

寺付く中野長者某應永十三丙戌年一廿七生け長者が隠居して信  
蛇身とて父母誓ひし相見最乗寺の春屋和尚招請し禪所  
建てまゝ池の辺りに安坐観念しすもち真意正観禪の血縁を  
池中に移し一旦偈を授く彼蛇像を棄て禪所を坪上天に如  
長者禪所の傍を離れ娘婦と感見すを以て旧宇を捨て禪  
歸し法花授戒し正蓮と改め居宅をこぼちし精舎を  
娘の法名正観の文字を以て寺号を以て正観寺境内に法をなむ三層  
の塔を造らし優薄塞を勤行し永享十二年庚申の年二十九人の

一一正蓮の塚境内に其後天明八年丙申春屋師四世川庵和  
尚当寺し量席しけり法嗣を以て正蓮と改め

代々木

江戸妙子云々村の先千五百軒〜〜〜廣村〜〜〜打石

○天神社 代々木山谷村 別名 三宮院 伏 土呂院

住持 徳住 寺の徳住

○八幡神社 別名 天台 宝教院 中 福泉寺

鞆掛松

兼保三年五月八幡太郎義家奥州武術征伐の時、所行の陣根河、父頼義入道死去、告果り、此の鞆掛松、  
代々木の量、所行の時、若馬を以松に依り、鞆を掛し、

才近の昔をいふ所も何れも江戸初めあり

○白山権現

○宝地山不斷院清岸寺 浄土 傳通院末

○正春寺 一向宗 專西寺末

○正春寺 一向宗 專西寺末

○正春寺 一向宗 專西寺末

○正春寺 一向宗 專西寺末

○復松 代々赤い橋道あり也畑の中へ角一玉古本也

復の中身一松が相違あり 西村村松の古本也

### 武藏野

武蔵野地名考の古く十知と誇りて西に秩父根末を

海曲の河越南を向ふ都無系ありて古本古本

河の証ありて一百年以来及び百里の古本の

秋の付合と誇りて一百年の古本の

狩の果人却の海曲の古本の

昔の古本の海曲の古本の

先の松をあらわして古本の

盗人ありて古本の

古本の古本の

おそろるる... 宗城園日記... 菊枝少集... 古今集

古今集

後撰

拾遺

新古今

新勅撰

古今集の... 勅撰の...

結古今

大徳寺通

書に於て日月の出入を以て一辰を以て一歳と云ふ

續拾遺

西の位

冬に於ては春に於ては夏に於ては秋に於ては

続拾遺

西の位

春に於ては夏に於ては秋に於ては冬に於ては

新子歳

西の位

冬に於ては春に於ては夏に於ては秋に於ては

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*





